婦人衛生雜誌

大正七年五月二十日發行

第三百四十一號

婦人衛生雜誌 第三百四十一號目次

例會通知

來る六月十日(第二月曜日)午後壹時半よりお茶の水高等女學校作樂館に於て本會例會を開き講演有之候間可成御知友御誘合せ御來會被下候

大正七年五月

私立大日本婦人衛生會

私立大日本婦人衛生會

設立趣意書

凡そ人として此世にありては徒に生けるのみをもて足れりとするにはあらずかならずや智識を磨き人たるの本分を盡くし幸福快樂のうちに一年を送らんと皆ともに希はざるはあらじされども其身健康にあらざれば此生活を得んこといと易からずこれ衛生の道の一日も忽にすべからざる所以なりとす

抑も〳〵衛生の法は一にして足らずとはいへども衣食住の改善育兒及看病法等の如きはいとも緊要の事にして皆吾等婦人のもつぱら掌るべき所其責任重しと云ふべし今や婦人の會合相繼て起り婦人社會も漸く其面目を改めんとするは眞に喜ばしきことなりされども夫の衛生の事に至りては更に注意を惹かざるもの、如くまことに口惜しきことなり因りて頃日同志婦人集ひ謀り一會を設け名けて私立大日本婦人衛生會といひ毎月一回集會を開き學識經驗ある人々に衛生上諸般の講義演説談話を乞ひ互に相研究し尚之を筆記して冊子を編輯し會員に分ち聊か同胞の爲めに盡すあらんとす茲に本會旨趣の梗概を敍べて廣く江湖の諸愛姉に告げ其贊成を仰ふぐことしかり

明治二十年十一月

首唱者總代

私立大日本婦人衛生會規則摘要

（明治廿二年十二月改正）

第一條　目的　本會の目的は汎く諸女子をして人生の健康を保持する方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を増進するにあり●第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置き地方に便宜支會を設く●第三條　本會々員たらんと欲する婦人は何人にても入會することを得●第四條　入會の節は姓名族籍住所及會員の種類を明記し本會事務所に申込むべし入會の者には會員章を交付す（交付手續金[illegible]なり）入會後轉居等あるときは速に事務所に通知せらるべし●第五條　會員を分ちて終身、特別及通常の三種とす、終身會員は一時に金廿五圓以上、特別會員は一ヶ月金三拾錢以上、通常會員は一ヶ月金拾五錢を納むる者とす●第六條　男子にして本會の旨趣を贊成する者は之を贊成員とす其會費は本會員に同じ但本會に功勞ある者又は本會に於て特に贊成員たることを望みたる者は役員の協議に依り無會費とすることあるべし●第七條　會員は本會に於て毎月發刊する雜誌を無料にて受くることを得●第八條　退會せんとする者は其旨本會事務所に報知し死亡する時は親戚知友より通知せらるべし但既納の會費は總て返戻せず●第九條　本會に[illegible]其中より總裁一名を[illegible]皇族[illegible]殿下に[illegible]るものとす●第十條　本會に左の役員を置く　會長一名、副會長一名、幹事七名、評議員三十名、書記若干名●第十一條　會長副會長幹事評議員は隔年三月の總會に於て會員の投票を以て之を選擧し書記は幹事の推薦に依り會長之を命す但書記は都合に由り會員外の婦人若くは男子に託することあるべし●第十二條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し會長事故ある時は之を代理し幹事は會務を掌理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命を受け諸記錄雜務を掌る幹事の分課を設け第一會計、第二編輯出版、第三庶務とす●第十三條　臨時指名委員の件●第十四條　會長副會長幹事評議員の任期は二ヶ年とす但し再選することを得若し任期中缺員を生するときは次點者を以て補缺す●第十五條　會長副會長幹事評議員は無給とす書記には相當の報酬を給す●第十六條　集會は例會總會及評議員會とす例會は八九月を除くの外毎月一回とし總會は三月に之を開く若し急要の事あるときは臨時に總會を開くことあるべし又春秋二回會員相互親睦の爲め園遊會を開くことあるべし●第十七條　毎會學識經驗ある人々に衛生上の講義演説談話を請ひ會員をして隨意聽講せしむるものとす●第十八條　會員は家族の婦女若くは知己の婦人を本會々場に誘致し講義演説等を傍聽せしむることを得（但衣服は總て質素たるべき事）●第十九條　講義演説等は男子の傍聽を禁ず●第二十條　規則の改正其他重要の件議定のこと●第廿一條　毎年三月總會に於て本會の收支決算並に庶務の概況會員の増減等を報告すべし●第廿二條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす●第廿三條　本會會計の收支は總て會計幹事の檢印を要するものとす●第廿四條　會計は一ヶ年毎に決算し翌年三月總會に報告すべし

支會●第廿五條　地方に於て本會々員十名以上發起者あるときは其規則を定め本會長の承認を受け支會を設立することを得●第廿六條　本會々員にして支會を設立せんとするときは發起者の姓名を記載して申出べし爾後員數增減あるときは其姓名を支會より本會事務所に報告すべし本會員にして支會に加入したる者の會費は本會に納付することを止め支會の規定に依るものとす●第廿七條　支會には支會限りて其會員に[illegible]ことを得●第廿八條　本會の雜誌は支會に回送すべき會を以て其費を支會より本會に送付すべし、支會限りの會員にして雜誌を請求する者に就きても亦同じ●第廿九條　支會は集會の都度其状況を本會に報告すべし●第三十條　本會は毎月一回雜誌を發刊し之を會員に配附すべし●第卅一條　會員又は會員外の者にして金錢若くは書籍物品等を本會に寄附する者ある時は本會々長の名を以て謝狀を附し[illegible]贊成し[illegible]報告すべし●第卅二條[illegible]すべし[illegible]東京府下は[illegible]（郵券は一割增）●第卅三條[illegible]前金と[illegible]●第卅四條　會員中若し本會の障碍となるべき所爲ある者又は屢々會費を督促するも納付せざる者あるときは會長評議員會の決議を經て除名し若しくは廣告することあるべし

東京市本鄕區駒込千駄町五十番地

私立大日本婦人衛生會

婦人衛生雜誌第三百四十一號
（大正七年五月二十日發行）

講演

傳染病豫防の注意
特に種痘に就て

醫學博士　瀨川昌世

近來は一般に衛生思想が大分發達して參つて傳染病が出れば之を防禦する――卽ち防疫と云ふことに官民共に力を盡す結果、傳染病も案外早く鎭まるやうでありますけれども、併し數年來東京は「コレラ」、「ペスト」の流行を見、只今では痘瘡が流行つて居りますのは遺憾のことであります、これ等の流行病の出ることは、畢竟、東京のやうな立派な都會でありましても、まだ下水も出來ず便所、臺所等の設備も充分出來て居りませぬから止むを得ないと云ふ人もありますが、現今の痘瘡の流行を見る時に痘瘡の豫防には至極簡單で、且確實な種痘法のあるのに拘らず、警察や區役所が强制的に種痘をしなければ、市民が行はない樣では衛生思想も心細い次第で、從て傳染病も中々撲滅しない、一般に傳染病に對して家庭で行つて居る場合を見るに、一度傳染病が出た場合には、唯無暗に便所とか椽の下などに石灰を撒いたり、疊を石炭酸で拭いたりして、消毒の目的が達せられるやうに考へられて居りますが、傳染病豫防の實をあげんとするには、傳染病の種類に依つて消毒法を加減せなければならぬ、御承知の通り猩紅熱「チフテリヤ」などの場合には、便所等は消毒するに及ばず、患者の身のまはりのものを注意するが肝心であります、病兒の持つた玩具を平氣で兄弟に持たせ、傳染の機會を作つて居るやうな場合が屢々見受

其外傳染病の豫防注射は、「コレラ」、「チフス」、赤痢等も此頃流行りますが、豫防注射は種痘の樣に、絕對に無害とはいかぬ、「コレラ」豫防液は純粹の「コレラ」菌ばかりにして、それを殺して毒の有るのを植ゑるのでありますから危險で、餘程體が丈夫でないと、色々の故障が體に起ります、此前に「コレラ」の豫防注射に批難があつたのも、それが爲めであります、併しながら、是は現今の免疫學の學說から言ふても、實際の經驗からしても、有效には違ひないものであるから、流行時には行ふた方が良い。

其他傳染病の豫防には、傳染の經路を知ると云ふことが必要であります、第一には空氣傳染で傳染の中で最も恐るべきものであります、卽ち空氣の中に浮游して居るところの、塵や水滴に黴菌が附着して居つて、それが人體に入つて、病氣を惹き起すのであります、痘瘡、猩紅熱、麻疹、發疹「チフス」、肺「ペスト」等、其他結核等も塵より傳染します、で大概の黴菌は、水分の無い處では死んで仕舞ふのですが、結核菌ばかりは、水分の無い詰り乾いた塵の中でも、少し薄暗いやうな處に行くと、數ケ月に亙つて生存して、此塵を吸ふやうな場合に出會はすと結核に罹ります、之に就いて氣が付きますのは、日本の掃除の事でありますが、日本の掃除の行方は、叩いて箒で掃くと云ふ仕方であります、けれども、あれは餘程注意して行らないと、却て寧ろ穢ない物を、室內に飛散せしめるやうな機會を多くして居るので、殊に空氣の流通の惡るい、窓の無い少し暗いやうな部屋なぞを掃除する場合、叩きなどを懸けると、塵は無くなりますやうに思はれますが、却て外に出ないで、反對に淸潔な處にまで、室內の塵が舞戾つて來ると云ふ譯になるのですから、さう云ふ掃除の行方は、却つて危險であつて、最も良いのは拭き取るのが一番で、掃かないで拭き去るやうにしたら、多少宜いと思ひます。第二には器具からの傳染でありますが、猩紅熱、麻疹ならば、子供の持つた玩具なぞから傳染る、其他の傳染病でも、物品に病菌が付

いて居る場合があれば、此物を介して傳染する、前に申した猩紅熱なぞは、危險であつて、此病氣は熱が去つて、癒つたやうであつても、なか〳〵危險である、之は熱が去つて二週間か、三週間目位から、皮がボロ〳〵落ちる、これで平氣で能く町のお湯に行つたりし、また學校等に通ふ子供を見受けることがある、其剝げた皮が、甚だ危險なもので、其皮に觸はつて、それが爲めに感染することが屢〻あります、それから糞尿から傳染するのは、「チフス」とか赤痢のやうなもので、其排泄物から傳染ると云ふ事は何方も御承知の事でありませう、先程申上げた猩紅熱、痲疹などは、子供の病氣でありまして、傳染病と確定する迄には、三四日はかゝる、此不明の間が危險なので、熱が出て、扁桃腺でも、惡るいのだらうなどゝ言つて居る間に、黴菌が澤山外界に出るのでありますから、其子供の持つた物は、勿論身の邊りとか、口にくはへた物ならば、充分消毒せねばならぬ。

次に水に依つて傳染る傳染病で、御承知の通り「コレラ」、赤痢、「チフス」等は主として飮食物、殊に水に大なる關係を有つて居る、「コレラ」、赤痢の黴菌は、乾かせば直ぐに死んで仕舞ふ、けれども、水の中では、長く生きて居る、殊に穢ない水よりも、清潔な水の方が、長く生きて居る、下水のやうな處にはいろ〳〵の黴菌が澤山居るから、種々の黴菌と「コレラ」や赤痢の黴菌が生存競爭をし、壓倒されて死んで仕舞ふから、長く生きて居られませぬ、有名な彼のコッホ氏が下水の水と、水道及び井戸水の中の黴菌を調べたことがありますが、其調べに依ると下水の中では、「コレラ」の黴菌は二十四時間で死滅し、水道や井戸水の中では、一週間から三週間も生きて居る、さうして而かも其水の中で、繁殖することを確めました、一度黴菌が水の中に入ると、所々に蔓延する、それは流行時に屢〻聞くことであるが、一昨年「コレラ」の流行つた時に、輕井澤のやうな處に「コレラ」が突然多數發生しました、其時段々調べたと

ころが、輕井澤は水に大變不便な所でありますから流れ水を使つて鍋、釜、食器等を洗らひ、又顔なぞを洗つたりして居る、最初高崎から來た「コレラ」患者の汚物を此河上で洗つた、それを知らずに川下で此水で面を洗つたり、食器を洗つたりして居た、さうすると二三日後に此川筋に「コレラ」患者が續々出來た、よく〳〵調べて見ると上記の次第で、其水を使つた者に限りて、「コレラ」に罹つたことが判明しました、で町の者が驚いて、川、井戸等を嚴重に取締つたので、間も無く止みました、斯くの如く水の關係は恐ろしいものである、獨逸などでも有名なハンブルグあたりでも、水道の中に黴菌が混入したゝめ、一時に多數の患者が出たと云ふ有名な話があります。

それから甚だ危險なのは、臺所で用ひます布巾ですが、黴菌は乾いた物には長く生存は出來ないが布巾は始終濡れて居る物で、戸棚等にも入れず、外に出し放しに掛けて置き、蠅や塵のたかるに放任して置く、此不潔な布巾で、切角洗つた食器類を拭くのは間違つて居る、之れが傳染病媒介の因をなすことが多い、私共の知つて居る所で、傳染病が出て困つた事がある、そこで非常な注意を拂つて、病人に用ひた物などは大層嚴重にしたのですが、それでも出るのでだん〳〵調べた所が、此布巾であつたことが解つた、其位布巾と云ふ物は、危險な物と思ひます、動物特に蠅、蚤、蚊等が、種々の傳染病を媒介することは、皆樣御承知の事なれば略します。

最後に御注意申したいのは傳染病に罹つた後の始末ですが、傳染病は一度行ると病菌がなか〳〵體内に盡きない、其病氣が癒つても、數週間若くは數年も保菌して居る、これを保菌者又は菌携帶者と云ひますが、斯う云ふ患者が、公衆や群集の中に入つて居ると云ふ事は、甚だ危險であります、でありまするからして、傳染病が癒つた者は、菌が體に居るか居ないかと云ふことを、一應調べて貰らふ必要があります、傳染病が撲滅出來ないと云ふことは、菌を

持つて居る健康者が、菌を散布て歩くにも原因することが多い、だから一度罹患者は、公衆の爲め餘程注意してほしい、もう一つは、子供が傳染病に罹つた後の始末であります、子供が非常に人と接觸する機會が多いのであります、で傳染病に罹る機會は、多くは幼稚園や小學校に多いので、子供が病氣になりまして長く休ませますと、家庭や學校でも、いろいろ學校の進級や成績に關係するから、成るべく早く出て貰らひたいと云ふやうに希望する、私共も始終家庭から聞くことで、もう今度一日出れば落第しないなぞと言つて居る、先生も能くお前は出來るから休んではいけない、出て來いと言ふやうなことを云ふ、普通の病氣なら宜しいでせうけれども、傳染病などであつては、本人は兎も角も、他の子供がたまらない、前に御話した猩紅熱のやうな者だの、百日咳だの結核と云ふやうな、病氣の子供を早く學校に出すと云ふことは、學校として一般公衆衞生上餘程注意して戴きたい、殊に結核のやうな病氣は、子供が澤山罹る病氣であつて、是も上手に適當の時期に治療すれば全治するが、其時期を失ふと、終に癒らないことになるのみならず、他に感染の危險もあります、此等の病氣に對しても、學校當事者から生徒に登校を誘ふのは、甚だよくないと思ひます、まあ種痘のお話に就いて、一般傳染病の豫防、それに私が氣が付いた事を申述べまして、今日の講演を終はります。

叢談

腦脊髓膜炎

醫學博士　入澤達吉

大阪府下に流行性腦脊髓膜炎が流行して去月末迄に百五十名程も患者を出し、その內六十九名は死亡して居る、

然るに東京に於ても先日四谷區に同病患者を發生し、且つ今回内務省令を以て流行性腦脊髓膜炎を、傳染病豫防法に依り豫防方法の施行を必要とする傳染病と指定し、大正七年四月二十七日より之を施行する旨を公布せられた。かたぐ以て本病の如何なるものであるかと云ふ大體を知つて置く必要があらうと思ふて、玆に入澤博士が實際病人に就て臨牀講義をせられた所に依て、極その大要を御紹介する次第である。(編者)

腦脊髓膜炎には色々の種類がある、即ち流行性、結核性、化膿性、黴毒性、漿液性腦脊髓膜炎等である、何れにしても腦脊髓膜炎といふものに重要な症候を擧げて見ると、頭痛、項部强直、それからケルニヒ氏症候といふやうなものである、これを少し詳しく述べて見れば、

(一)**頭痛**　これは腦膜の刺戟の結果起るのであつて病人には最も苦痛に感ぜられる症状である。その爲め患者は絶えず呻吟き甚しくなると大きな聲を出して泣き叫ぶものがある、併し又昏睡狀態になつて絶えず何か譫語を言ひながら頭を手で抱へて居るやうなこともある。

(二)**項部强直**　頸の筋がつる。これは項部の深筋といふて、少し深い部分の筋肉が緊縮むがために起るもので、頸を前へ屈げる運動が妨げられる、自分で屈げやうと思ふても、又他人の手で屈げて見やうとしても自由にならず、頤が胸につかぬ。併し頸を左右に動かすことは左程妨げられもせぬ。この項部强直が甚しくなると、頭を一寸枕から持ち上げやうとすると、頭と軀幹とが同時に上がるやうになる。又背中の筋肉が緊縮るやうになれば、脊柱が强直つて、その爲めに角弓反張といふて恰も弓を張つたやうに身體が反る、極めて甚しくなれば仰臥することが出來なくなる。

(三)**ケルニヒ氏症候**　仰臥位で脚を伸したまゝ高く擧げると疼痛を起すのが特徴で、これは下肢筋の緊縮の爲めに起る現象である。

(四)**腹部の舟底狀陷沒**　これは腹部の筋肉の緊縮のためではなく、寧ろ腸自身の收縮の結果腹部が舟底

の樣に引込むのである。

(五)嘔吐　腦膜の刺戟に由て起る所の嘔吐である。

(六)意識の昏憒狀態　精神がぼんやりして確かでなくなる、而して或は昏睡して折々譫語をいひ、又時としては臥牀から跳起きやうとし、或は手當り次第に物を投げたりして、所謂躁暴的になつて看護に骨の折れることがある。

(七)皮膚の知覺過敏　脊髓膜の刺戟の爲めに來る症狀で、病人は身體に觸はられることを嫌ふ、これは診斷するに大切な症狀の一つである。

(八)痙攣　緊張性、即ひきつるやうに、又は搐搦性即ぴく〳〵動くやうに痙攣が起る。これと同時に又はそれよりも遲れて手足の一本が働かなくなつたり、一側の手足が働かなくなることもあり、腰から下が働かなくなるやうなことがある。又眼筋痲痹で眼球の運動が妨げられ、視神經炎を起して視力が惡くなることもあり、聽神經炎、顏面神經痲痹などと云ふ症狀の現はれることもある。又瞳孔の形が變つて正圓でなく、左右の瞳孔の大さも不同になることがある、その外皮膚を何か鋭尖つた物で掻くと、皮膚に文字が書けるやうに血管が刺戟され易くなつて居ることがある　これはトルーソー氏症候といふて腦膜炎の診斷上大切な症候の一つになつて居る。

以上は腦脊髓膜炎一般の症候の主要なものを擧げたのであるが、前に述べた通り、腦脊髓膜炎の中にも種々のものがありて、醫師が診斷する上に於てはそれが化膿性のものであるか黴毒性のものであるか、又は結核性のものであるか乃至は流行性の腦脊髓膜炎であるかと云ふことを鑑別なければならぬ。

然しそれは餘り立入つた專門の話になるから略して、今玆に直接本題の流行性腦脊髓膜炎だけに就てその發病の模樣を簡單に述べて見るならば、流行性の腦脊髓膜炎は突然始まる、即ち前日迄學校に通學して居つた子供や、勞働最中の人に突然始まることがある。結核性のものなどでは、大抵その前に多少熱が出て、時々食事とは關係なしに嘔吐が起つたり

頭痛を訴へたり、何となく元氣がなくなる。かういふことが數日又は十數日も續き、その後に痙攣が起り昏懵とて、精神が茫として物事が分らなくなりて無暗に眠るといふやうな、種々の症狀が引續き起つて來るものであるが、流行性のものは刺戟症狀も痲痺症狀も同時に現はれて來る。尚ほ種々の事柄があるけれども、要するにこの流行性腦脊髓膜炎といふものは、腦膜炎雙球菌といふ一種の黴菌に由て起るもので、これを證明するのには腰椎穿刺といふて、脊骨の腰の部分から腦脊髓液といふものを採つて檢査して、その雙球菌を發見するのである。

扨て、この流行性腦脊髓膜炎に罹れば、皆死ぬるかと云ふに、必しもさうではない。尤もその流行時によつて性質の比較的良い時も惡い時もあるが、大體からいふと先づ半數位は治癒するものと見てよい。結核性の腦脊髓膜炎に至つては、先づ〳〵死亡するものと思はなければならぬ。只小兒が一寸痙攣けたのを見て輕卒に腦膜炎と診斷したり、又は假性腦膜炎といふて急性傳染病、特に腸窒扶斯、肺炎などの經過中に、殊に小兒に於て腦膜炎と殆んど同一の症狀を現はすことがある。併し此等の場合は、多くは一時的の刺戟症狀に過ぎぬから直に治癒る。

最後に流行性腦脊髓膜炎の療法は、如何なることをするかといふに、診斷を確かにする目的で、前に述べた腰椎穿刺を行つて腦脊髓液を採るが、これが又腦脊髓液の過度に高まつて居る壓を除くが爲めに色々の症狀が輕快する、それでこの腰椎穿刺を適度に繰返して行ふことは一つの治療法にもなつて居るその外特殊療法として流行性腦脊髓膜炎球菌免疫血清を注射する。西洋では大分よく效くと稱せられて居るが、未だ確かな事は分からない。その外は對症療法で、その症狀次第に種々の手當をするより外に仕方がない。

灌佛會

醫學士 高峰博

これは去る四月八日の釋迦誕生祭に方り高峯學士が看護婦講習會の爲にお話せられた所で、衞生上種々有益なお話と思ひ、特に乞ふて玆に掲載することゝ致しました。(編者)

四月の八日は俗に卯月八日とて灌佛會の行はれる日であります。即、御承知の通り、釋迦佛の立像に甘茶を灑ぎ掛けて、其の御降誕の日を祝ひ喜ぶ行事でありまするが、是れは我が國では推古天皇の十四年(今より千三百十年の昔)に元興寺で始めて行はれたのが、其の起原であります。

抑〻お釋迦樣は何年程以前のお方であるかゞ、既に歴史家の問題となつて居りまする處で、或は凡そ二千五百年前とも云ひ、或は凡そ三千年前とも申します。其又の御誕生の日時も二月だの、三月だのと色々説が有りまするが、一般には四月八日となつて居ります。釋尊の傳を讀みまするに、母上は摩耶夫人とて、拘利城主阿菟釋迦王の第三女。迦毘羅城主淨飯王に配して、釋尊の靈を宿してより、專ら、寶衣を著け給はず、寶扇を手にし給はず、五欲を恣にし給はず、唯、身に潔素の服を纏ひて清涼の風を納れ、耳に清淨の法を聞きて、怡樂の心を持し、今や臨月に及んで、風習に隨ひ、一時拘利城に歸り給はんとして、迦毘羅城を出で途上、藍毘尼園を過ぎり給ふ。時正に四月の八日。無憂樹の花は爛漫として咲き亂れ、清泉滾々として地に流れ、和風習々として身に適す。夫人、心も樂しく、樹下に立ち寄つて、花の一枝を手折らんとて、右手を擧げ給ふや、こゝに我が釋迦無尼如來は夫人の右の脇窩より生れ遊ばされたのである。時に天地は六種に震動し、天人は歡喜踴躍して、天華を雨らし、天樂を奏し、四天王は降臨して、太子を抱き上げ奉り、天龍は産湯を使ひ參らせた。乃、太子は七歩周行して天上天下唯我獨尊とて、人天三界の導師たるべきを宣言せら

れたのであります。後世、灌佛會の佛像の右手天を指し、左手地を指すもの、即、此の時の御姿を擬したので、又、甘茶を灌ぐは、産湯を使ひ參らせたるに象るのであります。

斯くして千古の大聖、釋尊は目出度降誕ましましたが、悼しい哉、聖母摩耶夫人は産褥の御養生叶はずして、産後七日にして、此の世を去り給ひ、あはれ孤獨の王子、悉達太子は爾後、夫人の實妹、波闍波提夫人の手によりて育て哺まるゝ事となりました凡そ世に子の親を失ふ程悲慘の事は有りませぬが、わけても乳呑兒の母親と訣れる程いたましい事は無い。此の俗世の萬事、すべて苦と觀じ給ひし釋尊は實に其の嬰兒期に於いて、此の人生最大の悲劇を先づ自ら嘗め給ふたのである。釋迦の大慈悲心の萌芽も實に其の由て來る所は遠い事と考へるのであります

私は、此の月の灌佛會に際し、右の事どもを思ひ浮べて、聊か、世の母親の心得にもならうかとて、産褥の養生法に就てお話したく思ふのであります。

産褥の養生とは、分娩が濟んで後、まだ身體が平素健康時の狀態に復せぬ間の事に就いて申すので、産褥婦に取つては先づ[第一]に身體及び精神の安靜といふ事が最、肝心なのであります。何故かと申しますに、お産は婦人に取つては一大事でありまして其の生命も左右せらるゝ事が稀ならぬのでありますから、今や産婦は其の精神上及び身體上に非常の刺戟と變化とを蒙つたのであります。かゝる際は、たとひ平素にありては、何の障碍もなさぬ程の原因を以てすら、産褥婦に於ては容易に其の影響を受けて或は精神病を起したり、或は內臟の諸機關を害したり、或は産褥熱を發したり致します。殊にこの最後のものが甚恐るべきで、これ娩産の時は如何に安産なりとて、常に多少の生殖器部損傷は必、伴ふてをるものでありますから、病毒菌の侵入するには最好適であり、且、得て不潔になりやすい部分の事であるから、危險の度も大きいのであります　かういふ

理由を出發點として、加ふるに醫學上の知識を以てして、以下追々敍ぶる所の攝生法が割出されるのであります。就中、嚴重でなければならぬのは、消毒法であります。是が〔第二〕の注意。素人は、不知不識の間に、又は多少見聞きしてゐても、實行するのが面倒な所から、「これしきの事は」とて、消毒をおろそかにした爲に遂に取り返しのつかぬ結果を生む事が多い〔第三〕に居室の事でありまするが、産婦の室は決して陰氣臭くては不可ぬ。直接に射入する光線は避けつゝ、明るくしておくこと、それから室の內外は閑靜で、其の溫度は十八度位が最もよろしく、空氣の流通を充分ならしむることが必要であります。〔第四〕には如何程の間、産褥に就いて居つてよきかゞ問題であります。短くは一週間、なるべくは二週間は離牀してはならぬ　尤、これは子宮收縮の狀態及び惡露の量の多少に關するので、卽、若し惡露が追々少量となり、其の色が稀薄となつて、同時に子宮が既に縮つて小骨盤內に入り終れば、牀を離れてよろしい。但、惡露とは産褥中に生殖器官より排泄せらるゝ液汁で、主として子宮內の創傷の分泌液より成り、加ふるに、子宮の頸管や、膣及び外陰部よりの分泌物が混じてをります。卽、眼で見れば血液や粘液や膿が存し、之には脫落膜の殘片も混在して居るのであります。さて、就褥期中も殊に最初の二三日は絕對的に仰臥位であるべく決して起牀させてはなりませぬ。これ空氣が子宮內に竄入するの危險を防ぐ爲と、それから、子宮が後來、生理的の位置を轉じて、脫垂を來し、又出血を致さぬ爲であります。

〔第五〕として、入浴は何日頃より許すべきか、夏期ならば第三週日から、冬は第五週日位から、平均産褥四週間の後には、お湯に入つて宜しい。〔第六〕に平素の仕事に復して差支なき時は第六週以後であります。それから次に、〔第七〕には寢具及び衣服の注意でありまするが、まづ其の淸潔、溫暖なるべきは勿論、乳房や腹部を冷却せしめぬ樣にせねばならぬ

兆の爲には腹帶は第八週頃迄も用ひてゐてよろしくこれは腹筋の恢復を促し、懸垂腹とて腹部がダラリと垂れ下がつたり、直腹筋の離開する事を防ぐのであります。

〔第八〕産褥婦の飲食物は、第三日目迄は一般に食慾減退するもの故、「ソップ」やお粥、牛乳、重湯の類が適當でありまするが、第三日以後は産婦の食慾も增進致しますから、追々と固形物を攝取せしめ、遂に第二乃至第三週頃には常食を與へて差支ありませぬ。たゞ「アルコール」性や鹽基性の飲料は禁ずべきであります。

〔第九〕便通に就きては、産褥婦は概して、便祕の傾向があるもので、これ腹腔內壓が下降した事と、腹の蠕動運動が緩徐となつたからでありますから、二三日位の便祕は懸念しなくてもよろしい。若し、更に長く續く時は腹部を注意して按摩法を行ひ、又は灌腸を試みます。又「ヒマシ」油（一五・〇乃至三〇・〇瓦）か「カル、ス」泉鹽、「カスカラサグラダ」越幾斯の類を內服せしめる。けれども灌腸の類は餘り反復しない方が宜しく殊に大きい痔核や直腸脫のある患者乃至膣部に損傷部のある時には、之を避けるが宜しい。又內服藥でも峻下劑は不可なので、大黃劑は乳汁中に出て來ますから子供にとつて害があります

次に尿利は、分娩後六時間を經て居るのに、尙通じない時は、膀胱部をば摩擦したり、壓迫したり、又溫罨法を行ふ。又は消毒したる微溫湯乃至冷水を以て、尿道口を灌注し、以て利尿を促す法もあり、尙これで尿が通じなければ、六乃至八時間每に「カテーテル」で排尿する必要があります。此の際、煮沸殺菌を嚴重にすること。

〔第十〕番目の注意は陰部の處置法で、卽、分娩後は少くとも一週間は每日二回程、滅菌せる微溫湯又は消毒液（二％石炭酸、三％の硼酸及び十一％の「リゾール」）を以てよく、拭掃、洗滌し就中負傷部あらば「ヨードフォルム」粉を撒布しておきます。

又〔第十一〕には乳房に對しての注意で、まづ授乳

は自身で之を行ふこと、即ち母親自身の乳をば兒に飮ませる事と及び乳房を子供の口に含ませる時の前後には三%の硼酸水で拭ふのがよろしい。

以上は產褥婦に對する攝生及び看護法の注意でありまするが、若し看護婦の如く之を以て職業と致さるゝお方は尙ほ次の如き二三の點に御注意なさる必要があります。即、〔第十二〕としては產褥婦の朝夕の體溫や脈搏を計り、子宮底の高さ及び其の收縮狀態、惡露の量及び其の性狀乃至兩便を檢査すること、更に〔第十三〕最初の九日間は斷じて內診を行はぬこと、これ娩產時の負傷部が癒合せんとし乍ら、再び哆開するが故であります。そして產褥期の終に於ては、須らく異常熱や子宮の後屈等の存せざるかを確めておくのが肝心であります。

素人の方でも大體に右の諸項を心得られて、自他の產褥に處せらるゝならば、萬、誤りは無からうと思ひます。寔に分娩及び產褥の經過は產婦にとりまして又初生兒にとりまして極めて重大なる意義を有しますから、決して輕々に看過すべきものではありませぬ。若し然らずんばかの摩耶夫人の如く人天三界の大恩教主釋迦佛の如きお方を產み乍ら、あたら我が身は產褥の七日目にみまからねばならぬ事となりませう。今日は四月八日でありまするから私は釋尊降誕を祝すると共に、御母上の事を想起致しまして、右の如き題目を揭げた次第であります。御淸聽を感謝致しまます

分娩時の準備

醫學士　山崎　淸

お產の時期が近づきましたら豫めお產に對する支度を致し置く事が大切であります、若し左樣せない時にはお產の時に周章して、思はぬ失敗を招く事があります、加之、產婦及び胎兒にも惡い結果を來たします。

第一　産室

病院抔ではお産の時に用ひまする爲めに特別に産室の設けがありまして、蓐室とを分けて居りますが、普通の家庭では平常用ひてゐまする部屋又は奥の部屋等を産室、次で蓐室迄用ふる事が多い樣であります、部屋の廣さは六疊、八疊乃至十疊位で、尙ほ次ぎに種々の道具を置いたり、準備をしたりする室があれば便利であります。

産室も本誌上にて妊娠時の攝生と題し、居室及び寢室――の所にて述べましたる要領に從ひまして、日當りの良い、且つ空氣の流通の宜しい、寒からず、暑からざる、寒暖宜しきを得る部屋を選ぶ事は大切であります。

第二　産牀

お産の時期が近きますれば、前に述べました産室と定めた部屋の器具、雜品は出來得る丈け他室に運び出し、次の準備室にはお産に要しまする物品を調へ、愈〻お産の催しがあります時には少しく早目に産婆に電話を以て通知しますか、又は使者を遣はし、他方には産牀の用意に取り掛る事が大切であります。

産牀は西洋風の寢臺なれば寢蒲團、日本風なれば敷蒲團を二枚位重ねるが宜しい、何れに致しても蒲團が餘り柔くて身體が深く埋まりまする樣ではお産の時不都合でありますから、成る可く埋まらないのを用ふる樣に致し度い、敷蒲團の上には新調又は洗濯した清潔なる白い敷布を掛け、其上に油紙か護謨布を敷き、更に分娩用蒲團を敷きまして、出産の時に排出された水や、血液を浸み込む樣にします。

産婦には輕い掛け蒲團か毛布を掛け、湯を澤山沸かし置けば先づ之れで宜しい。

我國にては古來より出産の時に陰部に敷く物は襤褸をのみ用ふる習慣がありまして、産襤褸と稱しまして妊娠しますとお産の時に用ふる爲めに襤褸を澤山集めて置く家庭があります、之れは極めて危險なる事であります。何故かと申しますれば、襤褸には

産褥熱を起します原因となる種々なる病原菌を澤山含有して居りますから、幸にしてお産は極く輕くすみましても産褥になりましてから、彼の恐ろしき産褥熱を惹起し、或は生命を失ふ様な結果に至る事があります、此れ所謂一文惜みの百文損じ愚者の爲す可き事でありまして、決して現今の文明の世に處する賢者の愼しむ可き事であります、故に若し事情止を得ずして襁褓を用ふる時には煮沸してから用ふる様に致し度い。

第三　産婦の清潔

妊娠しまする時には子宮よりの分泌物は多くなります、其れに就きましても清潔を保つ事は大切であります、加之産後は暫時の間入湯は出來ません、從て全身が汚れますから、お産が近きまして未だ時間が許すならば、腰湯、出來るなら全身浴をなして清潔になしお産するのが宜しい、斯様にする時には精神は爽快となり、元氣付きて、お産の時、陣痛も強く起りますから一擧両得になります、然し無暗味に入浴して、湯殿でお産にならぬ様注意する事は云ふ迄もありません、尚ほ頭髪は梳つて日本風の丸髷、束髪も解て極く簡單に輕くするのが宜しい。

第四　産婦の大小便

お産が近つきましたら、大小便の排泄を計る事が大切であります、若し大小便の蓄積がありまするこお産の道を壓迫し、狹めまして、お産が長引き、而くなり、苦しむ事になりますから、能く注意して排泄する様に致す方が宜しい、若し永く便秘でもある方は灌腸をし、お産の時小便が溜て居れば器械で排尿を計る事が必要であります、之れは醫師か産婆にして貰ふ方が消毒も充分に出來て、安全であります。

お産に必要なる品々に就て述べ度いと思ひますが少し長くなりますから、何れ稿を改めて述べる事にします。此際「産婦の注意事項」に就て少しく述べます。

第五　分娩時の飲食物

お産に要しまする時間は一樣ではありませんで、

普通七八時間から十五六時間位でありますから、其間の食事と申してもたいした事はありませんが、然し體力が衰へてはお産の時に力が入らず、陣痛も弱くなり、從てお産が永く掛りますから、空腹時又はお産の永引く樣な時には牛乳、鷄卵、葛湯の類を少量與へまして、氣力を付けて、お産を遂げさせます、餘り口の渇く時に少量の白湯は差支へありませんが、餘り澤山飲むと嘔吐しますから、分量は注意せないといけません、尚ほ體力、氣力衰へれば葡萄酒を少量與へます。

第六　精神の安静

お産は婦人の大役でありますから、産婦殊に初めての産者は大抵非常にお産に附きまして心配し、從て神經は過敏となつて居ります、然し「案ずるより生むが易い」との諺の如く妊娠攝生を守りますれば、大多數は極く樂にお産がすみますから、お産に對して少しも心配する事無く、醫師なり産婆なりの云ふ事をよく守りて、時期の至るを待つ事が大切であります、お産の時の苦しみは何んでも同樣で上下貴賤貧富の差別はありませんから、只だ忍耐力を以て堪へ忍ぶ内には直きに濟みます、中にはお産の時に些細の痛みに大聲を放ち、轉がつたりして、大騷ぎをなし、産褥になりましてから氣まづくなる方がありますから、之れはよく念頭に置く必要があります。

第七　臥産と坐産

臥産と坐産との利害得失を申しますれば、前者が最も安全で學理的であります、勿論只今老人となられて居る婦人抔は、お産の時坐産をなして、自分で總てを始末をなした抔と申しますが、之れは隨分危險千萬でありまして、坐産に依りて會陰破裂を來し、爲めに産褥熱を起し、或は後來婦人科の病氣の原因となる事があります、之れに反して臥産は自分でお産を始末する事は出來ません、從て醫師か産婆の手を煩はします、故に消毒も完全に出來、且つ會陰の保護も充分に出來ますから最も安全であります、仍て只今では重に臥産を取らしむる樣にしてます。

第八　産婆の選擇法

産婆には大體二種類あります、從前我國にありまするお産を多く取扱つたと申す丈けで、消毒法を除り念頭に置かない、所謂舊式の産婆と、西洋醫學が我國に輸入されてから教育された、消毒法を嚴格に守り、學理と實地とを兼ね備へたる所謂新式の産婆とであります、此二者の中何れを安心して頼み得るかと申せば何人も後者を指示すると思ひます

お産は時を選ばず、時を待たずに起ります、故に産婆は近きが必要であります。然し消毒法を顧慮せない産婆を頼むよりも、少々離れて居りましても消毒法を嚴密に守る産婆を頼む方が安全であります。

家庭に依りますると消毒法をやかましく申す産婆を頼む時には「ガーゼ」、脱脂綿等の消毒材料が多く要り、所謂新式の産婆は費用を多く要する、然るに所謂舊式の産婆であると産襁褓を重に用ゐ、萬事がお手輕で經濟的である故に新式の産婆は不可であると申すが、之れは最も過つて居る考へであります、何故かと申せば元來お産は生理的の作用でありまして、決して病氣ではありません、然し一歩誤りますれば直ちに病魔に襲はれます、是れ恰も暗夜に斷崖絶壁の邊を歩むと同樣にして、若し一歩蹈み損せんか、千仭の谷底に陷ります、何故かと申せばお産に依りまして子宮内には大なる傷を生じ、産道にも小さなる擦過傷を蒙ります、故に若し消毒法を顧慮せないでお産を取扱ひまする時には知らず〲種々の病原菌を是等の傷に移し爲めに産褥熱を起し、却て其の爲めに多くの費用を要します、幸にして全快すれば未だ不幸中の幸なれども、若し不幸の結果とならば主婦を失へる一家は實に悲慘な狀況を呈し、慈母を失へる嬰兒には早速何とかして他に哺乳の方法を講せなければならず、是等の事を考ふる時には消毒材料位の費用の比較に非ざるに至るのであります。

故に産婆選擇につき不明の場合は、産科醫に頼み然る可き、信頼し得る産婆を紹介して貰ふ可きであ

ります、然る時には醫師は責任を以て、確かなる者を紹介すべく、産婆も醫師に對し充分に其務めを果たしませう。

近來經濟の許す家庭にてはお産の時に産婆の外に産科醫を頼む事あり、之れは最も當を得たる、安全の方法であります、何故かと申せば前にも度々述べました樣にお産は生理的の現象でありますけれども瞬時にして病的と成る事があります、例ば分娩時出血又は後産が出でゝから、子宮收縮の惡い爲めの出血により、忽ちにして人事不省に陷る事があります、或はお産が異常を呈して胎兒の生命に關する事がありまして、産科的手術の急を要する事があります、斯くの如き時に傍に居れば即座に適當の處置を取る事が出來ます、故に之れと同樣の意味で近來は産科病院でお産をなさる方が多くなりました。

手足の重さ

莊司秋次郎

人間は身體を有つてゐる、幽靈でない限りは誰でも身體を有つてゐますが、健康な人は自分が身體を有つてゐると云ふ感じは無いものであります。身體を有つてゐると云ふ感じの起るのは病氣の時であります。例へば痛いとか苦しいとか云ふ感じのある時に初めて自分の身體の荷物たることに氣がつくのである。我々の身體は骨や肉や皮などで出來て居り、それに水分、血液が含まれて居り、又神經といふやうなものも有るのでありますから、それだけの重量が有る譯であります。所が我々は平素その重量を感じない。即ち人間といふものは、自分の身體の容積が別に氣にならず、身體は自分の重量を意識しないものであります。これは一寸不思議な事柄でありますが、事實さうである。

これが若しさうでなかつた日には如何でありませう。人間の精神は全く身體の狀態、種々の器官の複雜極りなき働きの爲めに支配されて、何も出來ない事になつて了ひます。卽ち少しも精神の自由と云ふことは無くなつて、身體は全く精神の牢獄となつて了はなければなりません。

然るに幸にも我々の身體は自分の重さを感ぜず、仕事をする時にも、その重さを氣にも留めずに、専心その仕事に従事することが出來る、これは恰も舟を漕ぐ人が只舟を進める爲めに専ら棹や舵を使ひさへすれば宜いやうなものである。卽ち水が一切の重荷を支へるからであります。

人間が自分の身體を感じないのは如何なる理由かと申しますと、知覺神經の生理的感覺性は、普通の狀態に對しては感ずることなく、謂はゞそれと平衡狀態を保つて居るからであります。それ故に知覺神經は、自分に最も近い周圍の普通の狀態は感じない、それで四方から同等の力が働いて居る時には、何の苦もなく身體を働かすことが出來るのであります。而してその力が偏すれば運動が起ると同じく、生活體に於て、普通の狀態に故障が起れば、玆に初めて知覺の平衡障碍が起る、卽ち不快の感覺であるとか疼痛であるとか云ふやうな異常の感覺が起つて來るのであります。この感覺があるので人間は自分の身體を意識し、同時にその異常の狀態、卽ち病氣を知らされるのであります。

さて我々の身體は何故自分の重量を感じないかと云ふ問題になりますと、これは一寸難問題でありますが、兎も角も身體を支へる部分には重味が懸り又感じもしますが、身體の各部には重味の感じといふものは覺えません、これは身體が休むでゐる時のみではない。その固有の機能を營む時にも感じないのであります。例へば四肢の機能は運動することでありまして、下肢の運動は機關車的の用をするのが、その生理自然の目的であり、上肢の方は種々の器械的の働をするのが、その運動の生理的自然の目的にな

つて居ります。それで四肢を以て右の如き生理的の目的に使ふ際には、四肢の重みを感じないのみならず、實際人間はその重味を擔はぬと云ふても宜しいのであります。例へば人が歩行く時には、誰も知つてゐる通り、脚が振子運動をするのである。故に下肢の筋肉は歩いたり駈たりする際には唯だ前進運動の働をするだけで、脚の重味を擔ふことはないのであります。上肢の筋肉に於ても同様で、その生理的の働をする間は、自分の重さに依て煩はさるゝことはありませんが、一度生理的の働に悖ることになれば忽ち重く苦しくなり始めるのであります。例へば腕を外轉する所の三角筋に就て申しますならば、只腕を外轉する運動だけならば、腕の重味を感せず又その重量を擔ふこともないのでありますが、外轉した腕を水平の位置に保つことになれば、忽ちその重さに煩はされるのであります。この水平の腕の位置は、決して生理的の目的にかなつた自然の腕の位置ではないからであります。

尙ほ腕の生理的の働は、その重量に依て妨げられぬといふことは、數學的に證明する事が出來ます。即ち大人の腕一本程の目方の刀を振ふとすれば、それは非常な大力の劍客でなければなりません。

然るに腕の所有者は、その腕を使ふ際に、その重さに苦むやうな事の無いのみならず、自由自在に働かして而かも少しも邪魔とは感じない、重い太い腕ほど容易に確實迅速、有效に働けるのであります。

更に又片腕しか無い人に就て觀察して見ますると、若し腕の重量が、そのまゝ身體の荷物になるものならば、片腕の人は、何れも腕の有る方に身體が曲つて、脊骨もその方に彎曲し、一方の肩が低くならなければならぬ筈であります。然るに實際は左樣な事は甚だ稀なことであります。

以上の如き事實から見ましても、腕はその所有者にとりては重味にならぬ事が分かります。

然し腕は腕でありますから、重量が無いと云ふ理はない、從つてそれだけの重味はある筈でありま

す。然るに斯の如く生きて居る人間に於て、その重量その目方が消えるのは抑ゝ何に由るのでありませうか。

これの解釋には種々の神經病の例を擧げて説明すれば能く分かるのでありますが、餘り長くなり、又くだ〳〵しくなりますから、今日は省略することゝ致しまして、結局この重量の感覺を打消すのは矢張神經の作用であつて、神經が健全であれば宜しいが、一度神經に故障が起ると、只今まで打消されて居つた重さの感覺が離れて、現はれて來るのであると云ふ事になるのであります。

以上だけでも隨分くだ〳〵しく、讀者の御迷惑であつたことを恐れますが、今日斯樣な事を申出しましたのは、實は昨今氣候の加減で、非常に身體が惰るいと訴へられる人が多い、而かも何故こんなに惰るいのでせうと詰問されますので、醫者の悲しさは、何とか之に説明をつけねば氣がすまないので、その方便の一つとして右の理由を擔ぎ出した次第であります。尤も昨今の季節に於ける身體の怠惰のは、單に前に申述べた神經生理だけで説明し盡すことは困難でありまして、それには又氣温、氣壓及び濕度即ち氣象と人體生理との交渉を論じて來なければならぬのでありますが、これ亦非常に複雜な難問で、實は今日と雖も甚だ不明の點の多い問題であります。

それで愈ゝ説明に窮した處で、何と申さうかならば、昨今の身體倦怠の感は、氣候の感作に由て血行、消化器、特に神經系統全般に輕微の變調を來し、その爲めに全身の機能緩慢となり、特に前述の理由に由つて身體の重さが幾分遊離する爲めであるとでも申したならば、或は多少詰問者の滿足を買ふことが出來ようかと思ふのであります。

從つてその療法としては、血液の循環、消化機能を常態に保つ工夫をし、特に神經系統を適度に緊張した狀態に保つことが肝要である。即ち稍ゝ活潑な運動を試み、殊に冷水摩擦を行ふ等の事が、最も適切になつて來るわけであります。

育兒

牛乳榮養に關する二三の注意

醫學士　宇都野研

哺乳兒に牛乳を與ふることに關して注意すべきことゞもを二三擧げて見よう。

一、初生兒に與ふべき牛乳量に就て　哺乳兒殊に初生兒を人工榮養に由りて發育せしむる企は、勿論極力避けねばならぬことであるが、若し已むを得ざる事情の下に餘儀なくせられた場合には、大なる警戒を加へつゝこれを施行しなくてはならぬ。而して哺乳兒に與ふべき牛乳量に關しては、既に太田博士がビユーダン氏の計算法を紹介せられ、實地醫家諸君は多大の便益を享受せられたことであるが、初生兒期は燃價の需要量が他の哺乳兒期に比して異なり、且つ日々哺乳量が變つて行くことであるから、彼のビユーダン氏法を直に應用することが出來ない。實際問題として、本邦の一部の醫家や產婆が初生兒に牛乳を與へて居る現狀を見ると、今日の小兒科では既に陳腐に屬して居るビーデルト氏の法を踏襲し、更にこれに尾鰭を著けて、極めて極度の稀釋法を施し、うんと乳糖を投じ、分量に關しても確たる方針がない樣である。勿論練達の士に取りては何でもないことであらうが、斯る際にやはりビユーダン氏の式に代るものがあると、大過無きを得て大に便利であると思ふ。幸にしてフキンケルスタイン氏の初生兒期の哺乳量を計算する式は母乳榮養から割出したものではあるけれども、そのまゝ人工榮養に應用して差支ないものであるから、一寸茲に紹介する。卽ち、

生後ノ日數－1×70又(80)＝當該日ノ一日哺乳量(瓦)

なる式より計算するので、例へば生後第六日の初生兒に與ふべき稀釋乳一日量、

$9-4\times70(又280)=350(又1400)$

卽ち一日に稀釋乳を三五〇瓦又は四〇〇瓦與ふべきである。(玆に算出せられたる數字は一日に攝取すべき液體の全量を示すものであつて、牛乳のみの量では無い、卽ち稀釋液の量をも含んでゐることを斷つて置く)。而して稀釋度としては、成熟兒であれば三分の一乳卽ち牛乳一と水二の割合でよい。糖の量は一日二瓦から始めて第二週の終頃には二十瓦位迄に進める。糖の種類は白糖又は滋養糖を選ぶのである。

二、脫脂乳のこと　東京市中でも一、二の大牛乳店に於ては立派な遠心裝置で脫脂してゐるのを目擊した事がある。然し信用の出來ないものが大部分であることは僕も同感である。そこで家庭に於て脫脂乳を製する必要に迫らるゝことがある。かゝる際に製法上冷臟庫などの不必要な點に於て、機械的に牛乳を打つて脂肪球を上騰せしむる下で廻轉する裝置が最も家庭用に適してゐるが何故か、機械所が製造しないから　泰西では家婦などが庖厨で實行してゐる方法、卽ち皿の中に牛乳を五合程容れて、これを氷室中に靜置すること二、三時間にして取出し、その上層を食匙に十五匙掬ひ去ること、(脂肪は比重が輕い故上層を占める)、脫脂乳が殘る。この方法を少し變へて行ふのである。卽ち盲目滅法に匙で掬ふと云ふ所が面白くないから、大きな硝子の漏斗か又は**イルリガートル**の樣な物に**ゴム**管を接合し、**クエッチハーン**で牛乳の漏れぬ樣に裝置し、硝子器に牛乳を注ぎ、一定時の後に取出して見ると、脂肪層だけが硝子越に色が違つて見えるから、**ハーン**をねぢて脂肪層の下までの牛乳を流出せしむるのである。而して氷室内に置くこと一時間のものに於ては、斯くして得た脫脂乳の脂肪含量は二・七%、二時間なれば二・三%、五時間なれば一・三%位になることを實見した。故に強くも弱くも脫脂し得るものである。

三、本邦の所謂小兒牛乳　獨逸の小兒牛乳又は衛生牛乳と稱するものは、特に小兒用として種々の點に注意してあることは人の知る所であるが、近來本邦にもかゝる名稱を冠したものが市場に現はれた、僕は未だ是等に關して深く研究して見たとはないが、多數に於ては脂肪含量が特に豐富にしてあることは確實である。そのために愛用者をして或種の榮養障碍に陷らしたることを實見してゐる。故に特に脂肪の多い乳を使用して見たいと云ふ場合の外は、本邦の小兒牛乳は滅多に勸められぬやうである。

市中販賣の脫脂乳に就て

醫學士　小杉文吉

種々の場合に脫脂乳の必要な事がある。殊に牛乳榮養の哺乳兒には屢〻その必要にせまることのあるは勿論である。

扨てその必要の時、直に之を手に入れることが出來るや、否や、固より病院の樣な設備のある所では何も雜作もない極めて容易なことであるが、然らざる場合は容易でない、個人的に家庭で脫脂器を設備すれば勿論好都合であるが、それとて急速の間に合はない、そこで、醫師、產婆、看護婦などの勸めで兩親が直接市中の牛乳商から脫脂乳を買ひ入れることゝなる、この際大に注意すべき事實がある。余は脫脂乳の製法上、最初から市中の脫脂乳を信用しない一人であつたが、嘗つて斯の如き一例がある。(大正三年秋頃) 即ち大學病院小兒科に二箇月許り入院して居た消化不良症の哺乳兒(九箇月)で、退院の時には尙は全脫脂乳(稀釋せざる脫脂乳に五%の割に滋養糖を入れ)一回量一五〇瓦宛每日平均六回宛飲用して居たのである。尤も普通の全乳にすると多少便が軟便となり回數も多くなつたので止むを得ず暫時脫脂乳を持續することにしたが、家庭の事情で脫脂乳飮用の時期に既に退院してしまつた。尤も兩親も

他の家族の人も注意深い人で、入院中と同樣の養生をすると云つて、豫め脫脂乳製法、牛乳消毒法などを度々育嬰室で觀察して居たのである。退院後直に某牛乳店より脫脂乳を買ひ入れ、分量及び滋養糖は全く從前通りにし、消毒法を濟まして飲ましたと云ふ。すると丁度約三回位飲んだ頃卽ち翌朝に至り、今まで毎日一回乃至二日に一回位宛あつた有形便が直に再び泥狀となり、次で稀薄泥狀便となり、顆粒をも含み、水分も多くなり、その日の晩までに既に四回排便があつたので大に驚き、余の診を乞ふたことがある。再び入院も大儀であらうと思ひ、止むを得ず普通の牛乳を稀釋して一回量七〇宛として數日間與へ、便の良好となるに應じ、漸次增量し、次で全乳に換へ、從前の用量としたが約三週間を要したのである。爾後余は此の如き場合卽ち輕症消化不良症には余の所謂比較的脫脂乳を使用して居るが、兎に角相當に良好の成績を示す樣である。勿論中等度以上の重症の場合(夏季)には、こんな方法では到底不可能であるから入院治療を勸めるか、或は狀態に應じ、**ラロサン**乳を使用するが、尤も**ラロサン**乳は近頃戰爭の爲め品切れとなつて居るから、**ガラクトサン**乳、**カルプミン**乳などを試用するつもりであるが、その結果は豫め想像することは出來ない。

余の所謂比較的脫脂乳と稱する者は、先づ全乳を取り、之を約五分間所謂單純煮沸法を以て消毒し、之を氷水中に大凡一時間靜置する、冷藏器あらばその中に靜置させる。然る時には主として上層に黃色を呈して脂肪が浮ぶ、之を**ガーゼ**五六枚で輕く濾過する時には脂肪の一部は**ガーゼ**に殘り、一部の脂肪量の除去された牛乳を得るわけである。之を病狀の輕重、年齡に應じ適宜に稀釋して使用する方法である。前記の例の如きは勿論絕對的にその原因を市中の脫脂乳に歸することは出來ないのであるが、家庭で能く注意の行き屆く場合であつたからして、他の條件よりも先づ第一にその脫脂乳に原因を考へなければなるまい。而してこの樣な例は恐らく余一人の

經驗ばかりではあるまいと思つて居る。

それから市中販賣の脱脂乳の不信用を免かれないことは、不幸にして後日に至り、更に明瞭となつたのである。即ち昨年秋（大正六年）少しく懇意になつた某牛乳商（但し德義上姓名を擧ず）の一雇人に就て少しく聞知せる事實は吾人をして直に啞然たらしめた次第である、勿論一雇人の言を信ずるは輕卒に過ぎる樣ではあるが、有り得ることは容易に想像される所であるから止むを得ない。尤もこれは牛乳營業者の競爭上自然に起つた事實であらうが、一方より考へると如何に本邦の商業道德の缺如して居るかを知らしめるのである。それは斯うである、即ち脱脂乳を牛乳店へ注文する人がある時は、新鮮なものゝ在る時は兎に角、然らざる時には、尤も脱脂乳は賣れ行き少なき故、少し位永く時間の經過したものでも賣り渡すこともあること、又その場合に脱脂乳のない時は、ないからとて謝絕するは、一つは得意先を失ふ恐れあり、一つは店の信用にも關するとて次の樣な方法を行ふことがあると云ふ。水道の水で適宜に稀釋して、之を脱脂乳と稱して賣るか或は店によりては上層の少しく黄色を呈して居る部分だけを除去して之を脱脂乳と稱して販賣することもあると云ふ。又或る場合殊に大人などにて成るべく濃厚な牛乳を望む時には、比較的黄色を示す牛乳を選ぶか或は他罎の乳脂の部分だけを別に加へて、之を特別濃厚牛乳として販賣することもあると云ふ。

成る程考へて見るとやりさうな事でもあり、又實際に特別濃厚と記入した罎などを見ることがある、又これに對して近頃特に小兒牛乳などゝ命名して販賣して居る所もある。固より牛乳商の販賣する脱脂乳が凡て此の如きものに非ざるは勿論であるけれども、吾人は牛乳商の脱脂乳製造の現狀を一々觀察することは出來ず又その成分を一々檢査して後、使用する樣な時間もない、從つて如何なる程度まで市中販賣の脱脂乳と稱するものを信用すべきものかも解らないのである。

手孔試驗法

莊司秋次郎

子供の考は實に天馬空を行くが如く、何等の抑制を被むることがない。往々生理的の範圍を超脱して縱横十方に驅廻るものである。然れば彼等が一切の社會的羈制を免れ、純然たる樂園の住民として餘念なく戯るゝ時には、煩惱に眼を障へられたる凡夫共の到底思ひ及ばざる莊嚴の世界に遊戯三昧を行ずるものである。

一顆の林檎の墜落を觀じて引力の大法を感得し、一藥罐の蓋の跳るを看て蒸氣の偉力を活躍せしめ、一張の紙鳶を飛ばして電雷を釣れるが如き、數へ來れば現代文化の要素は、多くこれ兒童遊戯の一方成就に出たるものである。然るに今日の教育を大觀するに、急にこの兒童の樂園を蹂躙して工場化せんとするの趣がある。斯るが故に、自然に發芽せる人文福祉の芳芽は空しく畏縮し拗戻して一部社會の翫弄にのみ適せる盆栽と成り了るのである。而してこの盆栽に適應せざる多數は悉く惡木雜草として世に顧られず。遂に自ら惡木雜草として世を荒蕪せしむるに至るのである。若し一方に於て尙ほ少しく小兒の自然性を愛護すると同時に、多少頭腦ある今日の學者をして、妄に僥倖を覓ひて其心を亂すことを免れしめ、克くその兒戯を成就するの餘裕あらしめば、本邦の科學思想は歐米に比して猶遜色あるも、豈多少の貢獻なからむやである。予は偶々昨年十二月三日發行の La Presse Médicale 第六七號に發表されたるカントーチ (Dr. A. Cantonnet) 氏の小論文を見るに全く兒童の遊戯をそのまゝ醫學的視機檢査法に利用したる者で、而かもその簡單精確なる實に稱嘆するに餘ある者である。手孔試驗法とは即ち是である。予は予の診察室に於て之を實地に應用して頗る便益を得て居るのであるが、是に由て一層兒童の遊戯と云ふものを尊重する氣になつたのである。事は眼科

學に關することであるけれども、何人も卽座に實驗して見ることが出來るから、その要領を述べて讀者の一粲に供することゝする。

L'expérience du Trou dans la main"

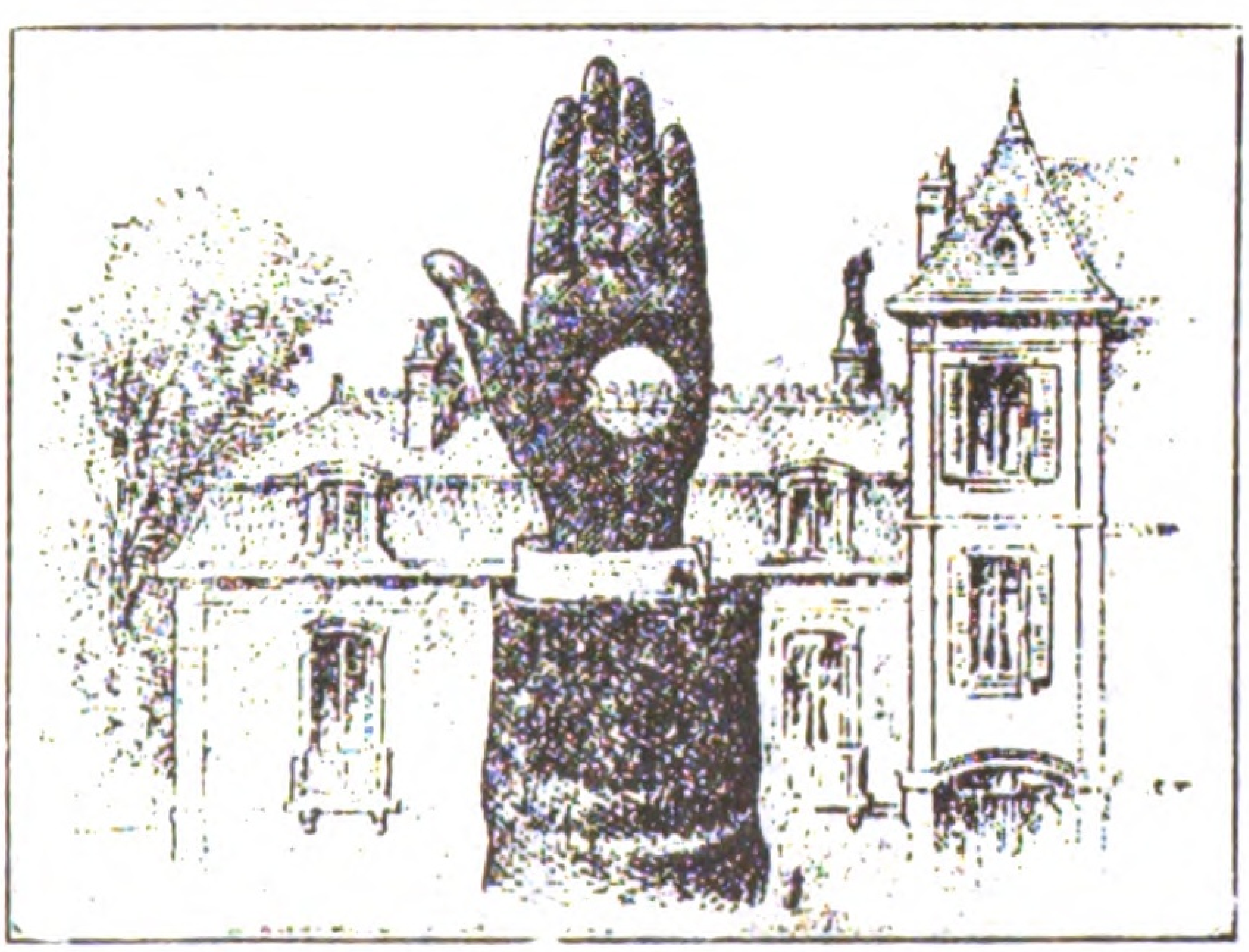
第一圖



私は試みに之を『手孔試驗法』と譯したが兩眼視機の驗證法である。ドクトル　ルミー (Dr. Remy) は發明者の名譽の爲めにカントー子氏試驗 (L'expérience de Cantonnet) と稱した。

それは先づ一枚の厚紙を巻いて筒狀にするか或は免狀筒の底を拔いたやうなものでも宜しい、それを手に持て、その孔の處を例へば右の眼に當てゝ稍々遠方の正面の物體を覗ぞく、それと同時に左の手の掌を左の眼の前大凡二十五糎程の處で筒に接し左の眼で手の掌を見る。

第二圖



斯樣にして兩眼で前方の繪抔を見ると(一)恰も手掌の中央に筒の孔の大さの孔が穿たれて其孔を通じて繪が見える筈である。之は正しく兩眼で物を見て居る證據である。(二)若し筒の視野內の物だけが見えて、手が見えないならば、

視機がない卽ち右の眼だけで物を見て居るので、左の眼は見えないか或は物が眼に映つても感じないのである。(三)若し又手だけが見えて筒の中の物が見えないならば、これ左眼だけで見て居るので、右眼は見えないか或は物が眼中に映じても夫を認めない卽ちこれも兩眼視機を缺いて居るのである。

それから孔が手掌の中央に見えれば、その兩眼視機は完全である。

(イ)孔が手の右側に見えるか或は多少離れて全く右の方に見えるならば、その右眼は内方、卽ち鼻側の方に過度に輻輳して居ることが分かる。卽ち鼻の方に向ひた斜視狀を呈して居るのである、若しその輻輳過度の程度が輕ければ、孔は手の右緣に偏るが倚ほ手の中に在る、眞の内斜視と云ふものになれば孔は手から離れて右に見えるやうになる。

(ウ)孔が手の左側に寄つて見えるか或は手より離れて全く左に見える時には、若し孔が倚ほ手の中に在れば、その右眼は開散の傾向があり、若し孔が全く左の方に離れて居れば、これは眞性の外斜視である。

(エ)孔が上の方に變位して、筒の水平線より隔つて高く見えるならば、これは垂直の位置の眼の偏位があるのである。併しこの垂直の偏位、卽ち上斜視とか下斜視とか云ふものは稀なもので、大抵内斜視や外斜視に合併して居るものである。

要點は大體右に述ぶる如き事であるが、更にこれを輻輳機異常の療法に迄も應用せんとして居るのである。吾々眼科醫にとりては診斷上極めて簡單で便利な方法である、右の理由も甚だ明瞭であるが多少専門の領域に入るから、却つて讀者の煩を恐れて省略することにする。

赤坊のお腹

近頃西洋の或醫學雜誌に「乳兒の榮養狀態と腹部

所見」といふ題で左の如き事を述べた人がありました。一寸氣がつかぬ事でありますが、實際さうであるとすれば、必しも醫者でなくとも分かることでありますから、御子持ちの方々の爲めに御參考までに御紹介致します。

それは何う云ふ事かと申しますと、適當の榮養狀態で發育して居る乳兒ならば、通常下腹の兩側の處が多少ふつくりと隆起れてゐるものである。これは恐らく生後餘り月の經たない赤坊では、その腹壁が柔かで弛緩むで居るから、腸の內を榮養物が適當に通る時には、その腸の壓迫を受けて只今述べた樣な隆起が出來るのであらう。若し瓦斯が溜つて腸が膨らさるゝときには、腹壁は一層著しく膨隆れることは勿論であるが、この場合には兩側と云はず一樣にお腹が太鼓のやうに膨れる。若し一、二箇月の乳兒で、右に云ふやうな下腹部兩側の隆起が無いならば、それは下痢をして居るとか、幽門痙攣といふて、胃から腸に移る部分の口元が縮むか或は狹いか、又は乳を吐く癖があるか乃至は乳を吸ふ力が弱いとか云ふやうな異常のある場合である。若し斯樣な異常が無いものとすれば、それは榮養が不足である。即ちその小兒は滿足に發育してゐないと云ふ事の一つの徵候だと申すことであります。但し二三箇月後の乳兒になれば腹壁の彈力が強くなるから、この隆起も無くなるものである。故に二箇月前の小兒に於て、下腹部の兩側が僅かに隆起れて居れば、先づ〳〵榮養狀態は普通で健康に發育しつゝあるものと思ふて宜しいが、若し然らざる場合には何ぞ病氣がありはせぬか或は榮養が不充分なのではあるまいかと考へなければならぬ譯になります。これは私自身には未だ經驗がない事でありますが、御子樣のお有りになる方々が銘々氣をつけて見て戴き度い事と存じます。

家庭衛生

流行性脳脊髓膜炎の話

醫學士　篠原昌治

本號叢談欄に既に入澤博士の脳脊髓膜炎の説明が掲載せられて居りますが、あれは學生の爲に臨牀講義をせられた所に依て、單に脳脊髓膜炎とは如何なる病氣かと云ふ事だけがお解りになるやうに摘錄したものでありますけれども、本篇は篠原學士が特に目下流行の流行性脳脊髓膜炎に就て、何方にもお解りになるやうに、殊に豫防上の注意までもせられたものでありますから之を本欄に收めることに致しました。（編者）

流行性脳脊髓膜炎は西暦千八百八十七年ヴイクセルバウム氏によりて發見せられました脳膜炎雙球菌と稱する淋病菌によく似た一種の細菌によつて發生する傳染病であります。

本病は冬季及び春季に多く、其流行は多くは小區域に限局せられて居りまして、他の傳染病例へば腸窒扶斯、赤痢等の如く大流行を來すことはありません、夫故屢々兵營、監獄、寄宿舎等に發生し、或は村内の一部落又は個々の市街等に限りて流行する場合が多くあります。一般に小兒及び壯年の者は本病に罹り易きものでありまして、男と女との間には何れが多く之に罹ると云ふ樣な差別はありません。

我邦に於きましては今より十餘年以前東京吉原に於て本病を發生し、一時に多數の患者を續出し、爲に東都の人々を恐怖せしめたことがありました。其後に於ては屢々各地に於て本病の流行を見ましたけれど、何れも其流行區域が廣大でなく且其患者も餘り多數でなかつた爲めに大なる問題となるに至らなかつたのでありますけれど、本年は大阪地方に於て本病の大流行を來し、多數の患者を發生しました爲に、本病も遂に虎列拉、腸窒扶斯等と同じく傳染病豫防規則を適用せらるゝこととなりました。

本病は時としては發病の一二日前より何となく氣分が勝れずして不安を感じ、惡感、頭痛、背部及び四肢の疼痛等を感ずることがありますけれど、それは極めて稀なことでありまして、多くは從來健全なりしものが突然發病するものであります。其際多くは惡感戰慄を發し、體溫三十九度又は其以上に上昇し、非常に劇甚にして殆んど堪ふる事の出來ない樣な頭痛を發し、且屢々嘔吐、痙攣等を發生するものであります。

本病患者は頸部及び背部に疼痛を訴へ、脊柱部を壓すれば何處でも疼痛を感ずるものであります、殊に頸部筋肉の緊張を來し、爲に頸は後方に傾き、左右には自由に動かすことが出來ますけれど前方には曲らぬ樣になるものであります。健康の人でありますれば、頸を前に曲ぐれば頸は胸部に屆きますけれど、此場合に於きましては患者は如何に努力しましても頸を胸につける事が出來ません。患者を仰臥せしめ、枕を外し、手を後頭部に當てゝ頸を前方に曲げ樣としましても强度の抵抗を感じまして、これを曲ぐる事が出來ないものでありまして、これを頸部硬直と唱へます。

單に頸部が後方に傾くのみならず、全身が弓の樣に後方に彎曲することがあります。これを後弓反張と申ます。本年は流行性腦脊髓膜炎のことが度々普通新聞に掲載せられまして、此病氣に罹つたものは脊骨が後方に曲ると云ふ樣なことが書かれたものですから、流行性腦脊髓膜炎の時には骨が曲るさうですが、それは病氣が治癒つた時には、どうなるものかと云ふ樣な質問を屢々受けることがありますけれど、此病氣の際に頸部や背部が後方に曲ると云ふことは一種の反射作用によるものでありまして、決して其爲に骨の形狀が變化するものではありませんから、病氣が治癒る時には頸も脊柱も、もとの形になるものであります。

患者の意識は病初には明瞭でありますけれど、多くは漸次溷濁し、譫語を發し、遂に昏睡に陷るもの

であります。往々患者は高聲を發して啼泣し、それも短時間のものでなく數日間連續して日夜啼泣するのでありますから、甚しく家族や附添人の人々を苦惱せしむる事があります、これを腦膜炎啼泣と唱へます。又時としては亢奮狀態となりまして、患者は病牀より飛出し亂暴なる擧動をして看護人を困らすこともあります。又稀には精神の全然明瞭なこともあります。此の如き場合には患者の苦悶する狀態は見るに忍びないことがあります。

患者の眼の左右の瞳孔の大さが不同となることがあります、又眼の瞳孔は一般に暗き處では開大し明るき處では縮少するものでありますが、此反應が全く消失し或は斜視となり、又は眼球震盪症と云ひまして眼球が常に震動することがあります。又口を充分に開くことが出來なかつたり「はぎしり」をする樣なこともあります。

皮膚は著しく知覺過敏となりまして、不注意に手を觸れ又は器物を打ちつけた際に患者は甚しき疼痛を訴へ、又は悲鳴を揚げる樣なことがあります又皮膚を爪や箸等を以て輕く搔くときは直ちに赤き線條を現はし、甚しき時は其部分が隆起し長時間を經て漸く消失することがあります。

本病の際には多くは便通は秘結し、腹部は舟底樣に陷沒するものであります。尿通は屢々閉止し、其際下腹に大なる塊りが出來て、それが臍部又は其以上に達することがあります　これは膀胱內に尿が瀦溜するによつて生ずるものでありまして、「カテーテル」を以て尿を排出しますれば此塊まりは直ちに消失します　又後には尿失禁を來すこともあります。

本病は發病後二週間位に於て腦症狀增惡し、脈搏漸次不良となり、遂に心臟麻痺に陷り死亡することもありますし、又肺炎、腎盂炎、其他の危險なる疾病を併發して其爲に生命を失ふこともあります。若し幸に治癒する場合には、多くは三四週間頃より漸次恢復し始め、徐々に治癒するものであります。然

し幸に生命を全ふした場合にも、目、耳及び精神の障碍又は筋肉の强直、又は麻痺等を貽すこともありますけれど、完全に治癒する場合も少くはありません。

本病は極めて重症のものは電擊性腦脊髓膜炎と申しまして、全然健康であつたものが突然頭痛嘔吐、惡感戰慄、發熱等を以て發病しまして、數時間乃至十數時間で全く昏睡に陷り、又は轉々苦悶して二十四時間乃至四十八時間以内に死亡するものもありますし、又輕症のものでありますれば、輕度の頭痛、脊痛を發し、中等度の發熱を來しますけれど、四五日乃至一週間位で治癒するものもあります。此輕症と重症の間には輕重種々なる程度のものがあります。

本病の診斷は常に容易なものではありません。本病の流行時には多くは速に正當な診斷を下さるゝものでありますけれど、其他の場合に於ては種々なる疾患と誤診せらるゝことがあります。結核性腦脊髓膜炎は多くは頭痛、不快の感、輕度の發熱等が長く續き、徐々として發病するものでありまして、一般に肺又は其他の體部に結核病竈を有するものでありますし、化膿性腦脊髓膜炎は屢々中耳炎、蓄膿症又は頭部顏面の丹毒等に續發し、若くは身體の一部に於て化膿病竈を認むることが出來るものであるけれど、是等のものとの區別は常に容易なるものではありません。其際は腰穿刺を行ひ腦脊髓液を採取し、これを檢査することによつて初めて診斷が確定せらるゝものであります。又本病の初期には腸窒扶斯と區別し難きことがありますけれど、それは時日の經過により自然判明するものであります。

本病の死亡率は流行時の模樣により甚しく相違するものでありまして、多き時は百人中六十乃至七十人も死亡することがありますし、又少き時は僅に二十人又は其以下のこともあります。一般幼兒及び身體虛弱なるものは豫後不良であります。本病は一般に他の疾患に比して死亡率比較的多きものでありま

すから、實に危險なる疾病の一つであります。幸に生命だけは取留めましても、盲目、耳聾又は癡呆となりまして一生を悲歎の間に送らねばならぬことも決して稀ではありません。

本病は斯く危險な疾病でありますから、之に罹らぬ様に豫防することは最も大切なことであります。然るに本病は之を如何にして豫防すればよいかと云ふことは、よく解つてをりません。元來急性傳染病の中には其原因の判明したものと未だ判明しないものとの二種類があります。而して其原因判明せるものには豫防の方法も判明し、其反對に原因不明なるものはこれが豫防方法も解らぬものゝ様に思はれますけれど、事實に於ては必ずしもそうではありません。例へば痘瘡の如く其原因は未だ充分判明しないけれど、其豫防は種痘によつて殆んど理想的と申すべき程度に其目的を達することが出來ますし、又流行性感冒の如きは其原因は判明して居るにも拘らず、これが豫防は未だ完全に行はれて居りません。

流行性腦脊髓膜炎は既に申述べた通りワイクゼルハウム氏の發見した腦膜炎雙球菌によつて發生するものでありまして、此細菌は多くの場合に於て患者の腦脊髓液の中に於て發見することが出來ますけれど、それでは此病氣が傳染するには其病原菌が患者の何處より體外に排出せられ、如何なる經路を通つて健康なる人の何れの部位に侵入し、それによつて發病するものであるかと云ふことに就ては未だ充分判明して居りません。それのみならず常に患者に接近してその看護に從事し起居飲食を共にしたとて、それによつて必ず本病に罹るものでもなく、其反對に本病の流行時に患者のある家へ一度も出入したことのない人でも、急に本病を發するすことがあります。夫故本病は同じく傳染病でありながら、他の急性傳染病、例へば虎列拉、腸窒扶斯、赤痢等とは大に其趣を異にして居りまして、是等のものは可成患者に接近せず、殊に其排泄物に觸れぬ様にし、若し之に觸れた時には充分に消毒さへすれば殆んど之に

罹ることはないと云ふ様に其豫防方法がよく解つて居りますけれど、本病に於きましては之を豫防するに如何にせばよきかと云ふことは殆んど解つて居りません。夫故本病の豫防は極めて困難なことであります。然し本病が傳染病である以上は、患者に接近せざるは之に接近するに優るは申迄もなきことでありますし、又患者の鼻汁、唾液、喀痰等は最も注意する必要があります。殊に本病は大抵其流行地域が限局せられて居りますから、其流行地には入り込まぬ様にし、又其居住が流行地域となつたならば、其流行が終るまで他に轉居すると云ふことは理想的の豫防法かと思はれます。既に本病に罹りましたならば、可成患者の身體及精神を安靜ならしめ、閑靜にして薄暗き室に臥さすることが必要であります。看護人も可成少數とし、嚴重に訪問の客を避け、近親者も成るべく近寄らぬ様にせねばなりません。食物は流動物で刺戟せざるものを良とします。

頭部及背部は充分に冷却せねばなりません。其他屢〻耳後に水蛭を使用せらるゝことがあります。

其他の治療法は悉く醫師の手によつて行はるゝものでありますから爰には省略致します。

健康容色不衰の法

故　田中雅樂郎

著者は尾州の醫官で、文政年間に田子養生談と云ふものを書きましたが、先づ婦人科、小兒科などゝ專門科のある如く、老人科といふものを興す必要あることを論じ、孫眞人が、四十に滿たずんば輒に補益の術を論ずべからずと云へる通り、修養の道も、何分少壯の人は信せず、信じても行ふことが六ケしいものであると云ひ、自分も半白に近く、血氣衰ふるに及んで深く養生の術を慕ふやうになつたが、幸ひ自分の家には仙家の方法が傳つてゐて、就中靈粉の法と云ふのが最も奇なるもので、親友數人とこれ

を試みたる所、その效驗神の如きものがあるから、これを天下に弘めると云ふ口上書の末に、種々の養生術を說いたのでありますが、主として身體各部の摩擦及び運動法であります。固より今日の生理學及び醫學の立場から見れば奇怪な說明をして居りますけれども、昔の人としては頗る要領を得たものと敬服するのであります。仍てその要點を摘錄して、少しく批評を試みようと思ふのであります。

福壽自全之辨

人相見や家相見などの說に從つて殃を避んとて、家居を移し、家相を改め幸福を求る人が少なくないが、聖賢の敎は、其家を齊へんと欲するものは、先づ其身を修むと言ふて居る、相法とてもその通り、養生をするのが第一である。

摩擦之法

凡そ人の頭面は毛竅に順つて摩すことを禁ず、毛竅の順逆を察して左右かはるゞ逆に摩擦するなり順摩すれば枯燥す、久しければ皮緩み肉低れ皺斑を生ず、逆摩すれば潤澤して皺斑自消、老たるは再少きに復り、久しうして怠らざれば顏色童子のごとく成べし。皮膚を摩て肉を犯さず、眉毛の逆摩を禁じ、胸腹は左右往來を主として上下縱橫すべし、腹は神闕に摩集るを要とし、手足は逆摩を主とす、一衣一布を隔つれば手足も順摩して妨なし、導引按摩皆益あり、浴に垢を洗ひ湯に汗を拭ひ、痒を搔が如きに至るまで、肌を親しく摩るには毛竅を逆にすることを常に忘るべからず。

以上は所謂皮膚の輕擦法であつて、その毛孔に對して逆に摩擦せよと云ふのは、經驗上から來た考でありませうが、當時にありては實に卓見と申さなければなりません。今日の「マッサージ」も同樣に逆に皮膚を摩擦するのでありまして、單に血液、淋巴の流を助けるのみならず、皮膚の神經並びに毛細血管の機能を良くし、殊に顏面の摩擦には是非逆摩でなければなりません。斯樣にすれば、果して皺が消えて、老人の顏が再び少年の如

くなるかどうかは請合はれませんが、その皮膚の色澤を潤澤にし、幾分皺を豫防するの效あるべき理であります。

夫手足の病たるや、氣血の昇降を失するに由てなり、手を久しく垂るれば、血降りて昇ることを失し、青筋浮びあらはれ、甚しきは皮膚の色紫黒に變じ、動搖して字を寫す事能はず、久立久歩して脚の疲るるも亦然り、逆摩を主とすれば其效速かなり、然るに順摩し血指頭に到集り何の所へか行かん、諸人諸を察せよ。

これは正しく血行の順逆を察して、血流を助くる爲めに逆摩すべしと云ふ生理に基ゐた議論で、今日の「マッサージ」の原理を言ふて居るのであります。當時に於ては確かに卓絶した議論で、西洋按摩よりも一歩先きに實地に行つたものと云はなければなりません。

靈粉乾浴之法

毎朝東面正坐（日午は南面し夜子の前は西面が宜し）靈粉を掌に置き、左右相摩粉消化し、掌を熱せしめて、兩眼を覆ひ溫め、摩拭ひ、左右更互滿面を逆摩すること各々九次、額より頂に至る十八次、頭面百骸手の及ぶ所如法摩擦すべし、殘所なきを要す、各所必しも左を先にし、摩する所に氣を充しめて摩すべし、冬は一度、春秋は二度、夏は三度行ふべし。

これも矢張前述の輕擦法に過ぎません、靈粉と云ふのは何か滑石粉のやうな滑澤な乾燥した粉であらうと察せられますが、それが特別の藥效があると云ふ譯ではありますまい、今日「マッサージ」を施す際に「ワゼリン」や、滑石粉などを手に塗ると同じ意味に過ぎまいと思ひますが、兎に角全身の皮膚を摩擦するは宜しい事に相違ありません、殊に『摩する所に氣を充しめて摩すべし』と云ふ注意は甚だ面白い事で、今日の體操の原則をも既に考へて居つたのであります。

手拭を絞る法

是一小事なれども、常に用らるものなれば此法を

守るが宜し、其大旨は指先へ血をこき寄せぬ樣に絞るべし。先づ手拭を疊み、刀の柄を握るごとく兩手に持ち、臂を開き、內のかたへ捻るなり、斯の如くすれば氣血凝滯せずして、指節太からず、手振ふ事なく、代指瘡鵞掌風「サ、クレ」、「ツマギレ」、「テヌグヒタムシ」、等の患なし。

これは格別の意義は無さそうに思はれますが、斯樣に手拭を絞るのが便利ならば、それも宜しからうと思ひます、但し右の效能書は頗る誇大なやうに感ぜられます。

兎に角以上摘錄した皮膚の逆摩法が、この田子養生訣の主眼でありまして、この後に孫眞人の五宜、呂成公の四事に、攝生術九事を加へて修養必用十八段と題して古來の普通の養生法を擧げて居ります。今その項目と要旨とを摘つまむで記すれば左の如きものであります。

○梳髮　右の手で梳づり左の手で摩で、交互に百二十度行ふ。

○嚥津　唾液を嚥下する。清潔な唾液は嚥み、不潔な唾液は吐く。

○琢齒　屢々上下の齒を打合はせて、こつ／＼と音を立てる。三十六通づゝ屢々琢き、多きを吉とす。

○摩面　手で常に面を摩でる事で、面を乾浴すると云ふ。

○煉氣　氣を平に靜にし、下腹に力を入れる。

○飮食　飢て食し、渴して飮む、正坐して氣を腹に充しめ心下を屈せず、緩に喰ひ、過食せず、夜食せず、憤とき食せず、外視言語を禁じ、他事を念ふことを忌む。食し已て摩面し漱ぐべし。

○衣服　素雅淨潔にし、時の寒暖に隨ひ、暑に先じて解き寒に先じて著す、厚ければ汗し、薄ければ溺す、濕衣汗衣皆人を傷ふ。大に溫め蒸じて火氣滿ちたるは振て火氣を去て著すべし。肌衣は和らかき木綿を藥に煮て著るにしかず、老人は絹を用うるもよし。

○居所　高臺大室よりも周密の小室が宜し。明暗を

適度にする。南面して坐し、東首して寢る。細隙の風を防げ、濕地には床を高くす。常に日に背いて坐すべからず。

○言語　言葉は少きが宜し、大語大笑を忌む。食するに語らず、寢て言はず、行に語らず。聲は腹より出せ。

○二便　忍ぶことゝ强て怒責するを忌む。口を閉ぢ目を瞑ぐ。

○眠臥　臨臥に漱ぎ、口を閉て寢、聲を發して語るべからず、膝を屈め左右の脚等からず長短あらしめ、側臥す。心先づ眠り目後に睡る、覺て力を充しめて足を舒べ屢〻轉側すべし。

○吐納　所謂深呼吸法。

○運動　體は常に運動すべし、但し躁しく動作すべからず、坐臥常に足の指を屈伸して怠るべからず。

○鳴天鼓　氣を閉ち眸を合せ、舌を上顎につけ、兩手の掌に兩耳の竅を掩ひ塞ぎ、第二指を以て中指を壓し、後頭部を彈くこと十八回、掌を遠く放つ。又耳を引き耳輪の表裏を逆に摩擦し、左右等しく指を兩耳の竅に入れ動かし、塞ぎて卒に拔く。

○擦腎堂　帶を解き氣を閉ち、兩手を以て摩擦すること三十六次。

○擦足心　毎朝目覺めたる時、寢ながら左右の足の裏を合し熱するまで擦る。臨臥にも、又夜中も覺めたる時は左右の足の裏を互に摩擦する。或は片手に足の指を握り、手の掌にて摩擦する。

○摩擦掌　忙しき人にて諸種の方法行ひ難きときは手を洗ふ如く左右相摩して熱せしむ。

○導引　全く體操法にて、身體の總ての關節及び筋肉をして、あらゆる運動を營ましめる。

船暈に就て

ドクトル　バルチュ

船暈といふものは誰しもよくやるもので隨分つら

いものであります従つて船暈の病理及び豫防法については、昔から樣々のことが唱へられて居りますが、それだけ豫防の困難な證據であります、大概よく利く船暈の藥或は處方があると申しましても、頗る當てになりません、或人にはよく利き或場合には效能があつても、何時でも誰にでも利くと云ふ譯には參りません、又長い間左樣な經驗を積んで證明された藥と云ふものも無いのであります。故に船暈に就ては長い間船旅でもして居つた人の經驗から割出した說を最も信ずべきものとするより外は無いと思ひます。獨逸のドクトルヘルマン、バルチュといふ人は久しく船旅をして居つた人でありますが、この人が經驗上船暈に對して最も良いと言ふ所は次の如くであります

先づ船暈に對して、特殊の豫防法とては有りません、色々の事を申しましても全く無效です。それで寧ろ日常慣れた生活法を守るに如くはないのであります。衣服や履物などは容易に著たり脫だりすることの出來るやうに仕立てるが宜い。船室は出來るだけ船の中央を選み、然らざれば外の端の方は避けなければなりません、そして船室は容易に換氣が出來、絕えず空氣が通ふやうにしなければなりません、但し直接に外氣が這入るやうにすることが必要で、第二、第三といふやうに他の室を通つて來る空氣では却て船暈の起るのを助けるものであります。若し天氣が好かつたならば、勿論、さうでなくとも許す限りは終日甲板上に居る方がよい、殊に船椅子の上に半臥位になつて目を閉ぢて居る。その他の場合に於ても、視覺的眩暈に對して免疫になる迄は、成るべく目を閉ぢてゐるのが得策であります。この眩暈感覺は、船の慣れざる行進運動と周圍との爲めでありますが、惡心、更に進んで船暈を起すのは主としてこれが爲めであります。故に少しでも胸が惡いやうな氣がしたならば直に橫臥になつて目を閉ぢる、そして成るべく頭部を低くし、或は胴よりも頭部の方が低い位に致します。

一體船の運動は非常に複雜なもので、大凡二十六種の運動要素から成る、斯樣な異常な運動は直接に視覺的眩暈の原因となり、從て船暈を起すことになります。卽ち腦は最初の間は、此の如き複雜なる器械的作用に打勝つことが出來ないのであります。これは恰も暗がりの中に於て階段を昇降する際に思の外に階段を一つ餘計に蹈み越したり、或は思つたよりも下の階段を蹈むだりするのと似た關係のものであります。腦機能の此の如き混亂の直接の結果は、血管運動神經系の障碍となり、次で血液循環そのものゝ障碍を來すことゝなります。その結果はどうかと申しますと、腹腔內の血管が弛緩む。卽ち筋肉の間を走つて居る血管は、その筋肉に依て支へられて居りますけれども、腹腔內に於ては、その支へが無いからであります、そこで血液は腹部の血管の方へ引かれて、一方には腦貧血が起る。この結果卽ち胸がわるくなるのであります。この嘔氣は、頭部を低くして仰向に寢て居れば避けることが出來、又除かれるものでありますが、胸が惡くなりかけた時に仰臥位をとりませんと、今度は嘔吐が起ります。この嘔吐は自然の救助手段とも云ふべきものでありまして、腹部に餘計に集つた血液を、この嘔吐運動に依て腹部から腦の方へ壓出することになります、卽ち一種の反應的機能と申すべきものであります。これと同時に胃の內容を吐出すのは、隨伴症狀たるに過ぎないので、元來胃そのものは船暈とは何等の關係もないのであります。

血液缺乏或は榮養品としての血液の不充分は船暈を起し易からしめ、持續的に背位をとつてゐても船暈が止まぬものであります。故に船暈の豫防法或は鎭靜法としては、榮養品を以て血液を飽滿させるのが最良の方法である。卽ち頻回且つ多量に食事をするのが一番宜しい。それで每日七回食事をする。卽ち第一回は朝起牀前十分乃至十五分に、最後の食事は就寢直前にするのであります。殊に「ポルト」酒或は濃い麥酒は頗る良效があります。又船暈が起てゐ

る間にも屢〻多量に榮養物を攝取しなければなりません、船暈の時には無論血液が少くなり又性質が惡くなるのでありますから、盛に榮養物を輸入するのは極めて必要の事であります、然しこれには流動食で速かに吸收されるものでなければなりません、それで肉汁、「ソップ」、「アーレ」、「ポルテル」などが適當であります、船暈が強ければ、一層屢〻食物を攝取しなければなりません、若しそれが出來なければ大凡十五分間毎に葡萄酒か麥酒を與へなければなりません、それも頭を擡起るのを避くる爲めに瓶から直接に飮ませるのであります。

尙ほ豫防的には、毎食事の後に十五分間づゝ横臥することをお勸め致します。それから少しでも胸の惡いやうな心持がすれば、直ちに何か少し食べて臥るのであります。長時間食卓についてゐることは大禁物で、何でも食卓に就たならば直に食べ始めて、速かに食事をすまして、それから横はるやうにしなければなりません。船暈の際の嘔吐は稍〻規則正しき間歇を以て起るものでありますが、食物を攝取するに最もよいのは、嘔吐發作のあつた直後であります。若しそれよりも暫時前に食事をしたのであれば、發作のあつた後には、もう一度同量の食物を攝らねばなりません。故に船室中には多少是等の食品を貯藏して置く、或は旅行に携帶して居るが宜いと思ひます。下劑は船暈の起るのを助長するものであります。尙ほ精神的竝びに身體的努力は成るべくこれを避け、談話や讀書も最少限に止むるがよいのであります。

若し以上述ぶる所の心得をよく守るならば、大抵の場合に船暈を免れる、縱令起つても多少引緊き氣分が惡いと云ふ位の程度に止まつて、嘔吐をするまでには至らないものであります。これは經驗上、著しく船暈を感ずる人に對しても效があります。

蚤の驅除法

小寺顯二郎

昔は蚤と云へば、只これに刺されると痒い、夜分は往々睡眠の邪魔をする、と云ふ位のもので、時々滑稽の材料を供給するに過なかつたのでありますけれども、傳染病中に於ても最も險惡なる「ペスト」は、主としてこの蚤に依て媒介されることの明かになつた今日に於ては、なか〳〵痒い位のことではなくなりました、況や發疹窒扶斯とか出血性黄疸とか云ふやうな種々の恐るべき傳染病にも蚤が關係するらしいと云はれるのでありますから、益々以て油斷はならぬ、到底滑稽どころではありません、是非これを驅除して、家屋内には一匹も止めぬやうに致さねばなりません。

然るに蚤といふものは御承知の如く甚だ敏捷な動物で、而かも身體が小さく且つ強健で、僅かの塵埃の中にも潜伏することが出來る。そこに以ていつて日本家屋には疊といふものがあつて、蚤の巣窟としては實に屈強の物でありますから甚だ始末が惡いのであります。

こゝに於て日本家屋より蚤を驅除するには如何なる手段を講ずべきかと云ふ事が問題になるのでありますが、兎も角も室内の掃除に注意し、殊に夜具戸棚や疊の下などは嚴重に掃除をして少しも塵埃を止めぬやうにしなければなりません。斯樣に掃除を丁寧にすれば著しく蚤の發生を少なくすることが出來まするけれども、前述の如く疊そのものが蚤の隱れ場でありますから、何うしても疊の中から蚤を逐出し、再び侵入することの出來ないやうに工夫しなければなりません。これには何したならば宜しいかと云ふに、種々の事を申しますが、矢張疊を日光に曝晒すのが一番良い、殺蟲劑などを用ゐましても、なか〳〵疊の中までは屆かず、多少蚤の身體に觸れても容易に殺すことは困難である。然るに太陽光線は

皆に諸種の黴菌類を殺すのみならず、蚤の如き頗強なる動物も太陽光線に直射さるれば、二三時間で殺さるゝことは實驗上證明された事實であります故に一年二三囘、特に土用の最も熱い時に疊を日光に二三時間も裏表から直射せしむれば、疊の蚤は確かに逃げ或は殺されて了う。そこで牀の上下の塵埃を掃清め、疊の下には油紙又は新聞紙を敷き詰めてその上に「ナフタリン」を撒布し、そうして疊を入れば、よく蚤の發生を防ぐことが出來ます。

その上に時々蚤を捕へ或は驅除する爲めには、從來用ゐられて居る除蟲菊が宜しい、但しこれは一時蚤を麻醉させるだけで、殺すと云ふ所までは行かない、故に麻醉して動けなくなつてゐるのを捕へて火刑に處するのであります。蚤といふものは實に強い動物でありまして、一寸死んだやうに見えましても「皮さへあれば何時か身になる」と云ふ如く、なかなか死なぬものであります。爪で以て壓潰したりするのは危險でもあり、確實でないから火に燒くのが一番確かです。

試驗的には種々の藥品を用ゐて蚤を麻醉させ或は殺すことも出來ますけれども、實用上は適當な物が少ない。石炭酸、昇汞水、「フォルマリン」等の如き普通の消毒藥は、「コレラ」菌や「チフス」菌などを殺すには實に有力なものでありますけれども、蚤に對しては至つて效力が微弱であります

一酸化炭素を石鹼水に混じたものは蚤を殺すに最も有力だと申しますが、頗る高いものになるので實用には適しません。そこで安くて有效な物は何かと申しますと、石油で、石油を千倍の水に混ぜて乳劑とし、その中に蚤を入れると僅か二分間位で蚤は死んで了ふ、卽ち油が蚤の呼吸管を塞いで窒息させるのであります。これは必しも精製した石油でなくとも宜しい、原油でも宜しければ、場合に依ては揮發油でも宜しいのであります。然し疊に對してはこれも應用することが困難でありますが、家屋を消毒するやうな際には石鹼水に石油を混じて用ゐてよからう

と思ひます。

以上を概括して申しますと、疊は日に曝し、室内の塵埃を清掃し、石油石鹼水を撒布して殘りの蚤を殺し、乾いた所で新聞紙か油紙を敷き、其處に「ナフタリン」を撒いて疊を入れる。そうして一匹でも蚤が居ると思ふ時は除蟲菊の粉を撒いて捕へて燒くと云ふ手順になります。これ以上に蚤退の妙案もなく、又實際これで以て蚤の難は大抵免れ得るのであります。

雜報



○日本赤十字社總會

日本赤十字社第二十六回通常總會は、五月二日午前十時半、日比谷公園に於て最と莊嚴に擧行せられたり。豫て行啓仰出されし　皇后陛下には、午前十時二十分、君ケ代奏樂裡に著御あり、閑院宮總裁殿下、石黒社長御車寄に奉迎し、社長の御先導にて便殿に御休憩、定刻來るや、總裁宮殿下御臨場の下に、石黒社長開會を宣し、事務及び決算報告に次ぎて常議員及び監事の改選を行ひ、次で　皇后陛下の御臨場を仰ぎ左の令旨を賜はる。

　茲に日本赤十字社第二十六回總會に臨み親しく各員を見るを喜ぶ、今や西歐の戰局愈〻紛亂を極む、この時に方り本社は其狀勢に鑒み一層任務の重大なるを知り益〻勉勵を加へ事業の擴張を圖らんことを望む。

次で。總裁宮殿下は奉答文を御朗讀あらせられ、次で石黒社長閉會を宣告し、陛下には玉顏麗らかに、君ケ代の奏樂と萬歲聲裡に還御あらせられたり。

○流行性腦脊髓膜炎

本年大阪府下にて流行性腦脊髓膜炎の流行ありて中中猖獗を極めて居る。去月二十九日迄の患者累計は百四十九名で、内死亡者六十九名、全治十四名、桃山

病院に收容中の者六十六名といふ數を示して居る。最近東京市四谷區に患者一名を出した樣であるが、或は各地に於て流行を見るかも知れぬ、大に警戒を要すべきことゝ思ふ。今回內務省令を以て、流行性腦脊髓膜炎を傳染病豫防法に依り豫防方法の施行を必要とする傳染病と指定し、大正七年四月二十七日より之を施行する旨を公布せられたことである。これで傳染病豫防法にて傳染病と稱するは、虎列剌、赤痢、腸窒扶斯、痘瘡、發疹窒扶斯、猩紅熱、實布垤里(格魯布を含む)、「ペスト」、「パラチフス」及び本病を合せて十病となつた譯である。

○產婆會の設立

井上東京府知事は市部及び郡部の產婆統一の目的を以て去月五日府令第十四號を以て產婆會規則を公布したる結果從來の產婆組合は市區郡產婆會なる一の公認團體となり市內各區及び郡にては夫々準備に著手中なるが日本橋區にては第一著手に去る八日午後一時より區內の產婆約百三十名を區役所樓上に集め新居區長より產婆會設立に就て種々諮る所あり事務所は各郡區とも其區役所若くは郡役所內に設け區長若は郡長が名譽顧問となり各市郡の產婆會は知事の認可を受け會員の一致協力して業務の研究に努力する事及び婦德の修養に努力する事を目的とするにありと云ふ。

○結核豫防活動寫眞

結核の恐るべき事、豫防の大切なる事を民間に深く諒解せしめん目的にて日本結核豫防協會の脚色及び撮影になれる活動「フキルム」は、全五卷四千五百尺の長尺物にして、之れが映寫時間約二時間半を要し、結核の如何に恐るべきか、其の豫防の如何に必要なるか、適當の豫防を講ずれば、さして恐るゝものにあらざる所以其の他結核萬般に亙れる學理と實際に「フキルム」としての興味を充分に加味したる理想的のものにして、之れに要せし費用約三千餘圓、その說明等も極めて洗練妥當なる物を作成し、行く行くは能ふ限り多數の複寫をなし、各府縣に於て巡

行的に映寫し、以て結核豫防の實を擧ぐることゝなるべきかと、因に同會は來る十八日神田區三崎町なる三崎會館に於て第七回總會を開き、總會終了後結核豫防大講演會を開き、講演終了後右の活動寫眞を公開映寫する由である。

○警視廳保健衛生係

警視廳醫務課に於て今回保健衛生係を新設することとなり、年々市民の體質の薄弱となり、幼兒死亡率の増加する原因等を調査し、その救濟資料を蒐集するそうであるが、その技師、技手、囑託醫等の人選中の處、女醫杏福子女史は右囑託醫に任命されたそうである。

○兒童體格の比較調査

東京市教育課では、豫て兒童の體育増進の目的を以て、市內の各小學校及び幼稚園に就き四歳から十八歳迄の兒童の體格を調査であつたが、此程漸く終了した、今四十五年から大正五年に至る各年度に於ける兒童の身長、體重、胸圍の統計を見ると、大體に於て著しき増減はないけれど女子は一般に男子に比較して體格が良く、殊に十三四歳前後の女子は發育良好で男子を凌駕してゐる、中にも面白いのは、市內で最も富んでゐる日本橋區內の小學兒童と細民部落の特殊小學校の兒童と體格が非常に相違してゐることで、之を比較すると、身長及び體重に於ては各年齡を通じて特殊小學校兒童が日本橋區內の小學兒童に劣つてゐるけれど、胸圍に於ては其反對に勝つてゐる、原因はまだ明かでないが、要するに日本橋區內の小學兒童は常に榮養物を攝取し何等の勞役にも服さないから、自然身長及び體量が良好だが之に反して特殊小學校の兒童は常に粗食して滋養物を攝らない上、手足の運動が劇しいから自然骨骼と胸圍の方が發達して行くのであらう、此現象は獨り兩者のみに限らず、都市兒童と農村兒童との上にも見られるが、最も適切な例は、上流の子弟たる學習院の生徒と普通の學校の生徒とを比すると、體格の上に著しい差異のあるのと同樣である、更に東京市の

兒童の身長、體量、胸圍を大阪、京都の兒童に比較すると、一番成績の良いのは京都で、次が大阪、東京の順である。

○新女醫

去る十一日を以て發表された本年度第一回醫師試驗合格者中女子には左記の人々があつた、孰れも東京女子醫學專門學校出身である

齋藤とく子	(二五)	茨城	細川秀子	(二五)	石川
池田梢子	(二三)	香川	介橋つる枝	(二五)	愛知
土橋駒枝	(二五)	和歌山	宮本シゲ子	(二四)	福岡
鈴木ヒテ子	(二五)	新潟	田中なみ子	(二八)	福島
相馬もりよ	(二五)	宮城	和崎ギン〓	(二五)	福島

○東京の戸數及人口

最近の調査によれば大正六年度の東京市内現在戸數は六十二萬七十六戸で、人口は二百三十四萬九千八百三十人である、これを前年度に比較するときは戸數に於て一萬八千三百五戸、人口に於て八千四百九人を增加して居る、これを區別にするときは左の如くになる。

	戸數	人口
麹町區	一三、九五二	六五、八九三
神田區	四八、四四七	一六八、八八三
日本橋區	三二、四八九	一五〇、〇七〇
京橋區	四九、五六二	一七一、七四八
芝區	四九、六一四	一九一、八一八
麻布區	二七、七七七	一〇〇、一三七
赤坂區	一五、五九〇	六六、一五五
四谷區	一六、七七五	六六、〇三四
牛込區	四六、一六九	一七〇、八七三
小石川區	四八、一七三	一七三、二〇四
本郷區	三五、七八一	一二四、七五七
下谷區	五七、七五〇	二〇二、七六五
淺草區	七七、一三五	二六六、一四九
本所區	六二、一二六	二四七、五二一
深川區	四八、七三六	一八三、七一一

○佛蘭西の產兒獎勵

佛蘭西は已に人口減退の爲めに憂慮すべき狀態にありたるが、今回の大戰の結果益〻容易ならざる國家の大問題となり、種々の方面より人口增殖策を講じてゐる、その一策として多產兒の家族に賞金を與へることゝし、昨年は佛蘭西翰林院の名を以てフラン

ソア、ガナーズ及びフィルマン、ウェルヤーの二人に「アッシ＝チラミー」賞金を二分して與へ、更に四千圓の寄附金をも附加された。ガナーズは千八百九十八年に結婚して十五人の小兒を擧げ、悉く健全で長男は本年十八歳である。ウェルヤーは十六人の兒持で、長男は當年三十四歳、末子は八歳、矢張皆健全の發育をして居る爲めに、此の賞金を與へらるゝことになつたのだと云ふ。

○植物「ミルクフード」

これは新生園主吉川氏が多年學理を實地に應用し穀類の蛋白、脂肪其他の榮養素を以て調製したるものの由にて、內務省衞生試驗所の定量分析は蛋白三六・六〇 脂肪一六・六一、維纖〇・二五、澱粉三三・二〇、灰分二・一三、水分一一・二一を示して居る。その廣告には虛弱な人、奮闘主義の人、簡易生活を望む人、其他小兒產婦に最良の滋養飲料で、血液を增し、筋肉を強くし、元氣を盛にし、色艶を華かにするのが特徵で、消化力は「チアスターゼ」よりも大で、味は頗る美とある。用法は並匙二杯若くは三杯に凡そ一合の熱湯を注ぎよくかきませて飲用するのである。

私は一回試食したゞけで何等の實驗も經驗もないから眞面目に醫學上から批評を加へる事は出來ない從つて廣告に云ふが如くその並匙三杯は牛乳一合五勺以上の滋養を含むか否や、又果して簡易生活の福音であるか何うかに卒に判斷することは出來ないが穀粉で製したものとすれば、誇大にさへ考へなければ、廣告に稱するが如き特徵のあることは疑のない所である。味も普通の葛湯に比して優つて居る。定價は大箱金五拾錢、小箱金參拾錢、發賣元は麴町區內幸町一ノ三、榮進舍代理部である。

○東京市の低能兒

東京市敎育會は低能兒の特殊敎育を施すに就て、其數及び程度を知らんが爲めにドクトル三田谷啓氏に囑託して調査をしたが、その調査の方法は、普通兒童の中より特殊兒童を選出し左の五項に依つて區別した。

一、學力劣等にして前學年末に進級し得ざりし者。
二、學力劣等にして本學年末に進級の見込なき者。
三、本學年末に進級し得らるゝも普通兒童に伍して學業進歩せすと豫測せらるゝ者。
四、兒童目下の學業成績に徴し特殊教育を施すを利益なりと信ぜらるゝ者。
五、智力劣等ならざるも性格異常なる者（例へば竊盗行爲、性慾異常、浮浪性等の如きもの）。

以上の條項に當て嵌る兒童は一〇、一七八中二五二人で、右條項別にすれば一項男一二女六、二項男四三女三六、三項男四九女五七、四項男二八女一八、五項男一二女九である、若し此數を以て全市を推せば四千餘名、全國小學生中には十四萬五千人の低能兒が居る譯だ、彼等の頭圍は普通兒童に比し短く其縱徑横徑亦小さく身長體重胸圍、視力等何れも劣り體重及び胸圍は一年下の者と比較するも尙餘程劣つて居るし視力は近視が多く、學業の成績は四、五六點が多く算術、讀方、綴方抔は零點と云ふのが少くない、精神檢査は七歳より九歳迄は甚だしき相違が無いが十一歳以後になつては智力年齢と實際年齢と一致する者が無い、性格異狀の兒童中には擧動不活潑、虛僞、竊盗、野卑の擧動並に行爲を爲し、俄に大聲を揚げ、無口で教師に答へず、多辯强情危險なる事を喜んで爲す抔何れも教育するに最も困難な者である。

廣告

○私立大日本婦人衞生會五月例會

本會は去る十三日午後一時半より本郷區湯島なる東京高等女學校附屬作樂館に於て例會を開けり。定刻に至り當日の講師醫學博士永井潛氏は多數の圖表を掲げ、『民族衞生の大意』と題し、民族の興廢する所以の原理より、その廢滅を防ぎ、隆興を圖るべき民族衞生の梗概を述べ、殊に此事に關する婦人特殊の任務に就て詳説せられたり。次に醫學博士河島右一氏は『妊娠に就て』の題下に、婦人最大の天職たる妊娠の要義を論ぜられ、閉會後階下の別室に於て茶菓を供し暫く歡談の後散會したるは午後四時過なりき

當日は役員會員の他に高等女子師範生徒諸姉の傍聽ありて盛況を呈せり。因に當日の出席役員姓名は左の如くなりき。

濱尾作子　鳩山春子　長谷川仲子
岡田淸子　緒方悅子　小川孝子
田村きよ子　天野たき子　宮本樂子

以上いろは順

○大日本婦人衞生會

收支決算報告（自大正六年三月 至同 七年二月）

收入

一金五千參百五拾八圓五拾錢七厘

內譯

一金參千五百七拾八圓六拾錢七厘　前年度より越高
一金千四百八拾八圓貳拾九錢　會費
一金七拾五圓　寄附及懇親會費 廣告料
一金八圓拾錢　雜收入
一金貳百八圓五拾壹錢　預ヶ金利子

支出

一金貳千壹百〇壹圓六拾九錢貳厘

內譯

一金五百拾九圓　報酬
一金九圓參拾四錢　備品費
一金千五拾六圓七拾參錢　圖書及印刷費
一金九圓貳拾五錢五厘　筆紙墨文具
一金百八圓貳拾四錢二厘　通信運搬費
一金百七拾貳圓　集金費
一金六拾九圓拾貳錢五厘　雜費
一金百六拾八圓　借家料

收支差引殘

一金參千貳百四拾六圓八拾壹錢五厘

內譯

一金參千圓　川崎銀行預金
一金四拾五圓參拾參錢　東京貯藏銀行京橋支店同上
一金八拾參圓貳拾九錢　振替貯金
一金貳拾八圓　借家敷金
一金百圓拾九錢五厘　手許有高

○入會者

○事務所申込み

本郷區駒込千駄木町六五池村方　通常　野田千代子

○轉居

小石川より支那北京史家胡同へ　久保田雪子
鵠沼より小石川區小日向水道町九二へ　安倍恭子
滿洲より牛込區市ヶ谷仲ノ町十四へ　藤村成子
麴町より麴町區下二番町廿八へ　神木靜子
牛込より市外池袋字大原一四五二へ　矢田部順子
牛込より牛込區新小川町二ノ七へ　馬屋原鶴子
朝鮮より朝鮮平壤東町官舍第二號へ　松寺琴子
小石川より四谷區荒木町十へ　近藤年子

以上

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁 東伏見宮妃周子殿下
會長 侯爵夫人 鍋島榮子
副會長 男爵夫人 濱尾作子

（いろは順）

幹事 鳩山春子
同 岡田德子
同 山本多穂子
同 松平芳子
評議員 入澤常子
同 濱田捨子
同 原みつ子
同 西絆子
同 緒方悦子
同 小川孝子
同 片山鉛子
同 丹波貞子
同 田村きよ子
同 鶴原誠子
同 中濱芳子
同 子爵母堂 松井正子
同 小松いさ子
同 天野多喜子
同 菊池峯子
同 宮本樂子

同 長谷川仲子
同 高木鐐子
同 三浦敬子
同 羽田三緒子
同 服部繁子
同 仁禮壽賀子
同 土肥多越子
同 岡山とし子
同 男爵母堂 加藤鈴子
同 吉岡彌生子
同 高橋孝子
同 武田貫子
同 男爵夫人 南部限子
同 山口貞子
同 古市幸子
同 近藤憲子
同 岸澄子
同 三宅藤子
同 守屋千代子

婦人衛生雜誌代價及廣告料

代價

一册 定價金貳拾錢 郵稅壹錢
三册（三ヶ月分） 前金郵稅共 金四拾五錢
十二册（一ヶ年分） 前金郵稅共 金壹圓八拾錢

廣告料

一頁六十二行 一行二十三字
壹頁 金五圓 半頁 金貳圓五拾錢
○特別廣告 壹頁金拾圓 半頁金五圓
○半頁以下行數ヲ以テ計算スルモノハ一行貳拾五錢

規定

○本誌購讀申込ノ節ハ前金三ヶ月分以上本會事務所宛ニ送附セラルベシ但シ見本ハ郵券ニテ貳拾壹錢代用苦シカラズ○本誌休讀ノ節ハ速カニ報知セラルベシ通知ナキ分ハ購讀者ト見做ス但シ後金ニハ割引ナシ○轉居ノ節ハ新舊宿所通知セラレタシ

大正七年五月十七日印刷
大正七年五月二十日發行

編輯者兼發行者 東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地 莊司秋次郎
印刷者 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 櫻井新三郎
印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 合資會社杏林舍

發行所 東京市本郷區駒込千駄木町五十番地 私立大日本婦人衛生會事務所（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町 吐鳳堂
同市銀座四丁目 東海堂
同市京橋區鎗屋町 東明堂
同市本郷區本富士町 明文館
同市同區春木町 南江堂支店
京都市寺町二條南入 若林茂一郎
東京市日本橋區吳服町 北隆館
同市神田區表神保町 東京堂
同市本郷區本富士町 盛春堂
名古屋市榮町六丁目 丸善書店

婦人衛生雑誌第三百四十一號　大正九年一月三十日發行

